

3

昭和十九年一月内藤虎江氏
間島問題調査書

十三
梧棲屋製

MT

14133

10369

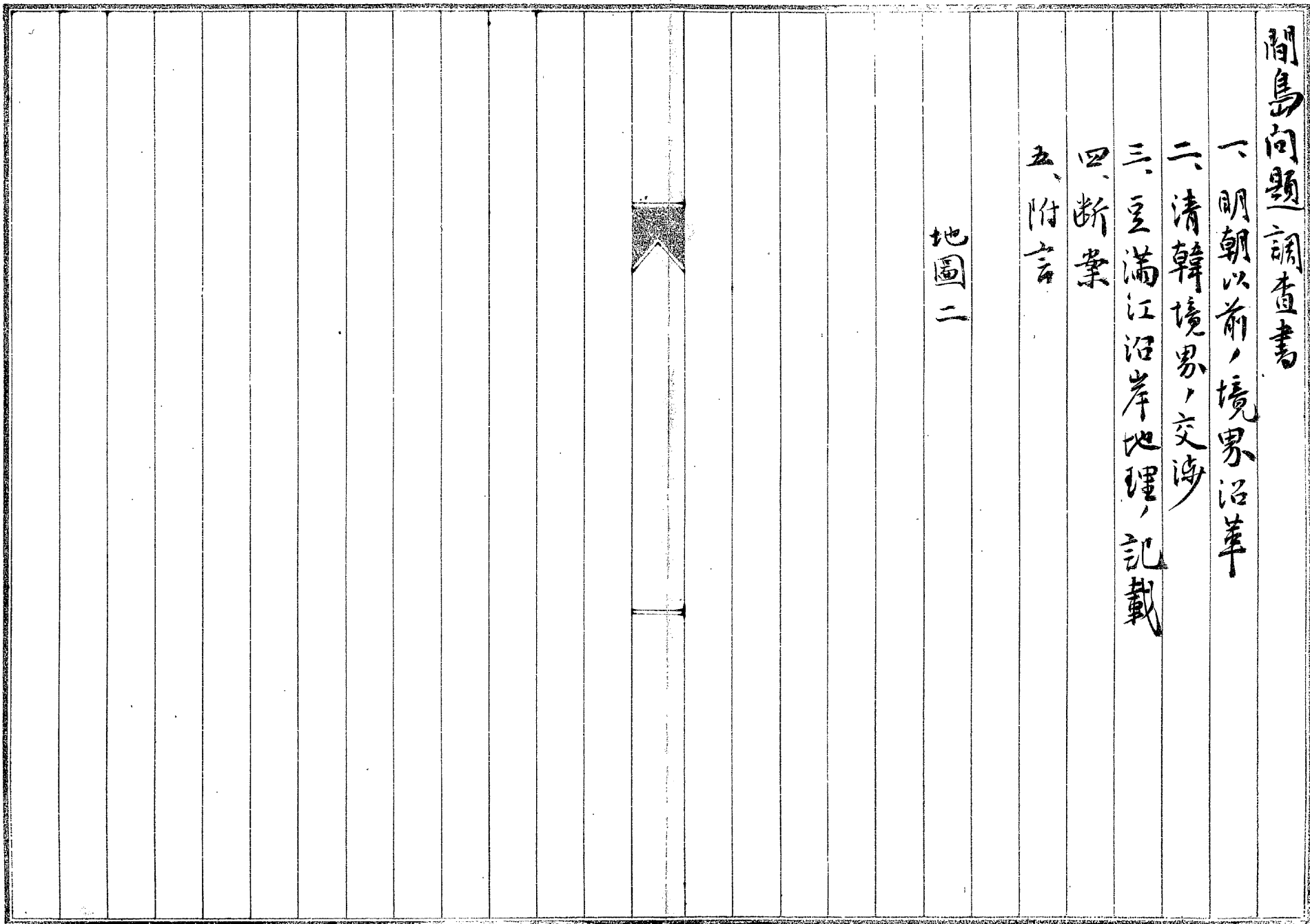
REEL No. 1-0364

0091

間島問題調査書

- 一、明朝以前、境界沿革
- 二、清韓境界、交渉
- 三、豆満江沿岸地理、記載
- 四、断案
- 五、附言

地圖二



十三 (粘板屋製)

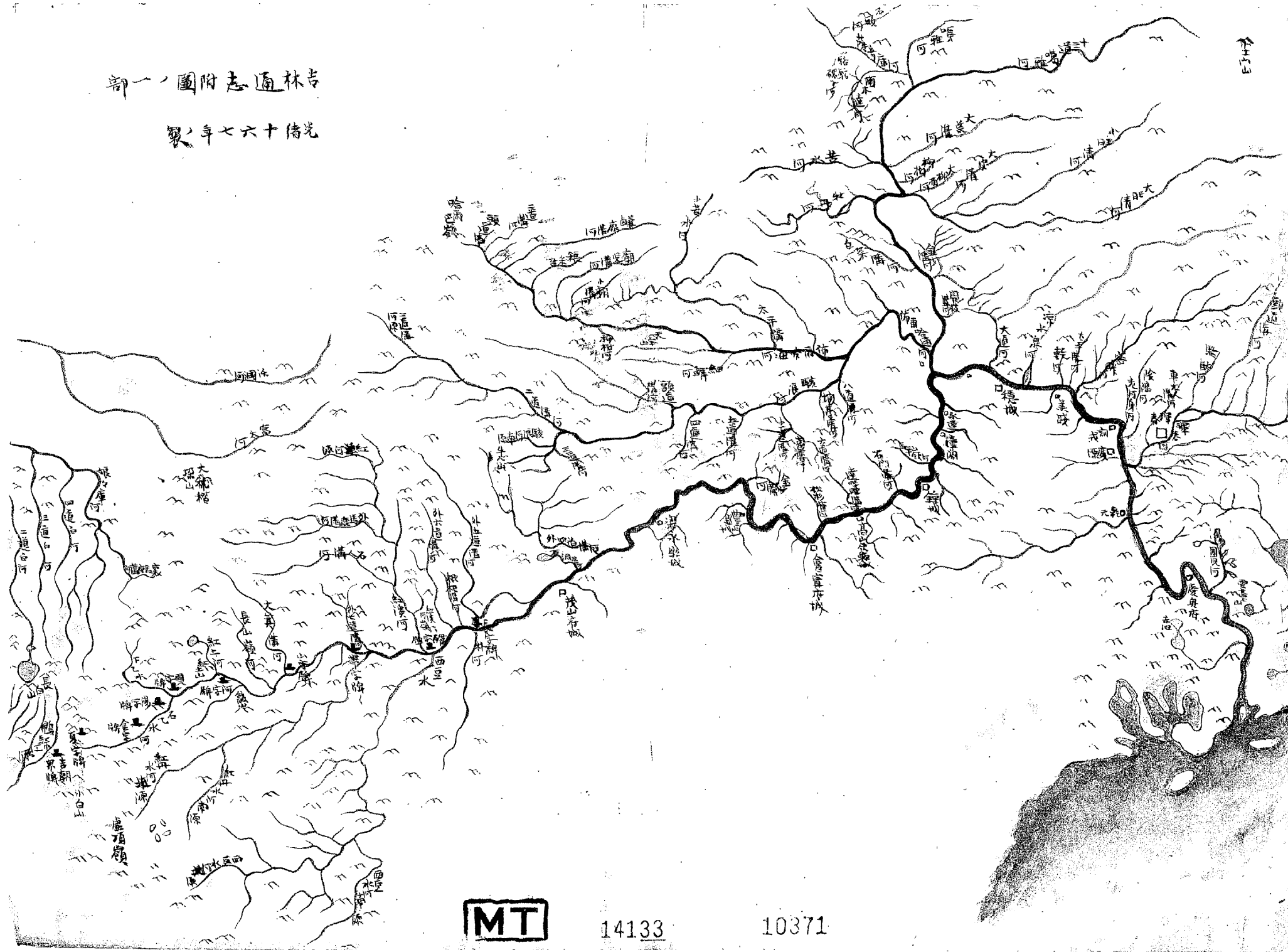
MT

14133

10370

部一、圖附志通林吉

製、年七六十倍光



MT

14133

10371

REEL No. 1-0364

0093

間島問題調査書

一 明朝以前ノ境界沿革

韓國ノ東北境ノ野人女真ノ部落ニ連接シ其伸縮時々ザルノ實アリガ高麗朝、睿宗ノ時(西曆二〇七)都元帥尹瓘ガ女真人ヲ驅逐シテ豆満江邊ニ九城ヲ築キシハ其最ニ擴大セシ時ト云フ、東回輿地勝覽ニ云ク

會寧、高嶺鎮ヨリ豆満江ヲ渡リ古羅耳ヲ踰エ吾重站、英哥站ヲ厯テ蘇下江ニ至ル江原、公嶮鎮ノ古基アリ、南ハ

貝州探州ニ隣リ北ハ堅州ニ接ス、按ルニ高麗史、地理志ニ公嶮鎮ハ睿宗ノ三年城ヲ築キ鎮ヲ置キ防御使ト爲ク、六年ハ山城ヲ築ク注、一ニ云ク孔州ト一ニ云ク匡州ト一ニ云ク

先春嶺ノ東南、白頭山ノ東北、在リ一ニ云ク蘇下江ハ在リト今既ニ慶源ヲ以テ孔州トスレバ恐クハ先春嶺

ノ東南、白頭山ノ東北、蘇下江ニ在ル者ヲ是ト爲ス然レトモ未ダ考フベカラズ又地理志、通泰平茂、宗寧、真陽等ノ鎮皆睿宗ノ三年ハ城ヲ築キ四年ハ城ヲ撤シテ女真ニ還ヤリト

アリ其地面今亦未ダ考フベカラズ先春嶺ハ豆満江北七百里ニアリ尹瓘地ヲ拓キテ此ニ至リ公嶮鎮ハ城ヲ築キ碑ヲ山嶺上ニ立テ刻シテ曰ク高麗之境

ト碑ノ四面書アリ皆胡人ノ刻キ去ラン蘇下江ニ就テ輿地勝覽ハ又左ノ如ク記セリ

愁濱江ノ源、白頭山ニ出ツ北流シテ蘇下江ト爲ル一ニ速平江ト作ル公嶮鎮、先春嶺ヲ至テ巨陽ニ至リ東流スル一ト一百二十里阿漢ニ至リテ海ニ入ル

又白頭山ノ下ニ注シテ其頂ニ潭アリ周八十里、南流シテ鴨綠江ト爲リ北流シテ松花江、混同江ト爲リ東北流シテ蘇下江ト爲リ

十三 積椽屋製

MT

14133

10374

MT

14133

10373

連平江ト爲り東流シテ豆滿江ト爲ルト云々又大明一統志ヲ引キ
 ラ東流シテ阿也若何ト爲ルト云々疑フヲクハ速平江ヲ指スル
 トセリ欽定盛京通志ニ阿也若何ヲ阿雅噶ト改メ乾隆御製盛
 京賦吉林通志ハ之ヲ愛呼ニ作り之ヲ以テ豆滿江ニアテタリ
 案スルニ愁濱速平ハ音ヲ以テ之ヲ推スニ今ハ綏芬河ヲ指ス者
 ナバク蘇下ノ下ト云フ下ノ語リニシテ同シク譯音ノ異ナルノミ
 綏芬ハ滿州語ニシテ錐子ノ義ナリ要スルニ其女真語ニ本ジ
 タル名ナルトハ疑ナシ綏芬河ヲ長白山ヨリ出タリトスルハ其謬
 レルコト論ナキモ是レ猶ホ近年マデ豆滿江ヲ以テ長白山ヨリ出
 ツルトナセルガ若ク往昔地理ノ明カナクハ時代ニ在リテハ怪シ
 ニ思フク松花江ノ源流ハ教支アレバ各其クブレカク認メテ豆滿江
 及ビ綏芬河ノ源トナセルナラシ近時韓人ガ蘇下江ヲ以テ松花江
 ガ長白山ノ大澤ヨリ出ズル一脈ニ當ツルアルハ尙ホ舊時ノ謬
 ヲ襲フ者ナシモ古代ニ於テハ松花江源ヲ以テ蘇下江源トシタル
 コトハ疑ナシ愁濱江ガ徑過スル巨陽ハ輿地勝覽ニ縣城ノ北九十
 里山上ニ古石城アリ名ツテ於羅孫站トク其北ニ虛乙孫
 站アリ其北六十里ニ留善站アリ其北七十里ニ土城ノ古基アリ
 即チ巨陽城ナリ世ニ傳フ高麗ノ尹瓘ガ築ク所ト西史春
 嶺ヲ距ルコト六十里許リトアリ縣城ハ慶源ノ鎮北堡ヲ會比
 家川ヲ渡リ大野中ニ土城アリ名ツテ縣城ト曰フ按ズルニ龍飛
 御天歌ニ奚濶城ハ東訓春江即チ今ノ輝春河ヲ距ルコト七里西豆
 滿江ヲ距ルコト五里トアリ疑フヲクハ是レナラシトアリサレバ尹瓘
 ガ地ヲ拓ケル區域ハ東北ハ綏芬河ヲ限リ今ノ嘎雅河ハ佈尔哈
 圖河等ノ源流タル長白山東北ノ支峯諸山以南ナリモ者ノ如シ
 近年清國ニ編ミ吉林通志ハ考據頗ル精核ナル者ナリガ
 亦今ノ駭浪河即チ海蘭河ノ地方ヲ以テ高麗ノ九城ヲ築

十三 楊慶堃

MT 14133 10376 MT 14133 10375

キタル處ナリトアリ獨リ朝鮮ノ丁鏞が大韓疆域考中北路考
ニイ權ノ北征ハ威鏡道ノ吉州ヲ一步モ踰テ去トノ説ヲ王限ス
レトモ丁鏞ノ説ハ北路考ニ於テ謬誤尤モ甚シク金ノ祖先ガ
威鏡道ヲ起シレト云フガ如キ奇論多クハ此ノ古來ノ據アリ
記事ヲ抹殺スルノ價直ナキ者トス

金元ヲ征テ高麗ノ境ハ大ニ盛ニリ女真人ハ豆滿江以南ニ
テ侵入セルガ今ノ朝鮮王ノ祖先ハ李氏ハ女真ノ血統ニ出テ
者ノ如ク豆滿江ノ東部ナル韓東等ノ地方ニ起リ元ニ仕ヘテ
南京五千戸ヲ遣魯衣赤ノ官ヲ受ケタル者モアリ南京ハ
潼關ヲ豆滿江ヲ渡リ南青浦ヲ經テ舍春川ヲ渡シ
慶ニ在ル古城ナルト輿地勝覽ニ見エテ太祖李成桂ハ高
麗ニ仕ヘ時ヲ屢々野人女真ト戦テ之ヲ驅逐シ其ノ王位
ニ即シ後數世相継ギテ此ノ地方ノ征略ニ心ヲ勞シ世宗ノ

十六年ニ至リ(西曆一四三四)豆滿江邊ニ六鎮一府ヲ置キテ野
人ヲ防御スル兼名ヲ倭橋スルコトナリ今ニ至ルニ之ヲ倭橋ニ置
カレタリ支那ニ在リテハ明朝ノ永樂宣德年間ニ松花江ヨリ
里龍江地方ニ舟師ヲ送リテ之ヲ征服セシメトアリ今ノ露領
ナルニ遺存セシ永寧寺ノ二碑記(今ハ滿州府ノ博
物館ニ保存セシ)ハ永樂十一年
及ヒ宣德九年ノ建立ニシテ宣德九年ハ實ニ朝鮮世宗ノ
十六年ニ相當セリ然レドモ豆滿江地方ハ野人ノ占據セル處ナ
レト其ノ朝鮮ニ近キカ為トヨリ明ノ聲教ノ傳播ハ向テ
朝鮮ノ關係深キニ及ブ明朝ヲ通シテ朝鮮ノ野人ニ於ケル
討伐撫綏ハ代トシテ之ヲキハナキモ明朝ニテハ海西建州以
東ノ女直(女真ノ改稱)トハ一モ直接ノ交渉ナカリシニ似タリ四朝寶鑑
太祖六年ノ條ニ云ク
上ノ即位以後聲教遠ク被リ民始テ生テ安シ業ヲ

十三 楊慶堃

MT

14133

10378

MT

14133

10377

樂ムコトヲ得テ、田野日ニ闢テ、生齒日ニ繁シ、野人ノ酋長
 皆階部ニ服事シ、東征西伐、從リザンコトナシ、上位ニ即キ
 萬戸千戸ノ職ヲ量授シ、李豆蘭ヲシテ女真ヲ招安セシメ、
 被服ノ俗盡ク冠帶ヲ襲ヒ、禽獸ノ行ヲ改メ、禮義ノ
 教ヲ習ヒ、國人ト相昏嫁シ、役ニ服シ、賦ヲ納ル、コト編戸ニ
 同シ、且ツ酋長ニ役セラル、テ耻ヂ皆氓クシ、コトヲ願フ
 孔州ヲ遷シ、甲山ニ至ル、テ邑ヲ設ケ、鎮ヲ置キ、以テ氏
 事ヲ治メ、學ヲ建テ、以テ經書ヲ訓ヘ、文武ノ改畢
 ノ舉ガル、延哀千里皆版籍ニ入り、江外ノ殊俗爭テ相義
 ヲ慕ヒ、或ハ親シク來朝シ、或ハ子弟ヲ遣ヒ、或ハ爵命ヲ
 受ケ、コトヲ請ヒ、或ハ内地ニ從リ、畜フ所ノ馬、若シ良駒ヲ
 産スレバ、皆自ラ有セズ、多ク來リ、之ヲ獻シ、江ノ近ブ、テ
 居ル者、國人ト爭認スル、アレバ官、其曲直ヲ辨シ、或ハ之ヲ
 囚ヘ、或ハ之ヲ笞ウツモ、敢テ怨ムコトアルナシ、又邊將政綱ノ時、
 於テ皆三軍ニ屬シ、シテ願ヒ、賦ヲ獲レバ官ニ納レ、律ヲ
 犯セバ四罰ヲ受ケル、コト國人ト異ナラシメ
 コニ孔州ト云フハ、今ノ慶源ナリ、東回輿地勝覽ニ、太祖七年
 高麗尹瓘ノ古址ニ因リ、テ石城ヲ築キ、其地ニ德陵、安陵李氏
祖考ノ墳墓アリ、且ツ基ヲ肇ムルノ地ナリ、以テ慶源ト改メ、シルコトヲ
 載ス、太宗ノ時、一タビ女真ノ入寇ニヨリ、其地ヲ棄テ、タルモ、世宗
 十年、又之ヲ復興セリ、今太祖以來、宣祖ニ至ル、朝鮮女
 真、漢倭ノ略表ヲ左ニ舉ゲテ、其國ヲ示ス
 定宗元年西曆一三九九 元秋、哈等來朝ス、元秋、哈等、
ハ、元者、衛地方ノ夷人ニシテ、清人ノ寇集、鳥魯音、高集ト稱ス者ナリ、
其ノ居ルハ、長白山附近、豆滿江水源地方ニ在リ元秋、哈等、
 全年 元、良、哈、狼、ヲ、獻、ス
 世宗十五年西曆一四三三 婆猪江ノ野人李滿住等、邊

MT

14133

10380

MT

14133

10379

九犯ス崔潤德ヲ遣シ討ラシテ平ラシク
按猶江に今
沈佳にナリ
 今年 兀狄哈 韓采里ノ猛哥帖木兒父子ヲ殺ス韓
 木河酋長トシ明年會寧鎮ヲ韓木河ニ置ク
 十九年 (西曆一四三七) 成吉思道都節使金宗瑞、北
 邊征略ノ策ヲ院ツ、金宗瑞密書ヲ上リ豆満江、防
 備ヲ設クルノ利ヲ言フ
 世祖 乙亥年 (西曆一四五五) 女真萬戸好時乃等入貢ス
 五年 (西曆一四六〇) 野人尼麼車、兀狄哈非舍
 等來朝ス 時、建州衛ノ童倉又朝鮮ノ正朝使ヲ
 北京ニ見テ國ノ藩屏ヲシメトコトヲ言フ
 今年 申叔舟ニ命シテ北野人ヲ征シ豆満江邊六
 鎮ヨリ路ヲ分チテ進ミ大ニ野人ヲ破リ其巢穴ヲ搗ク
 北野人等、明使が已レテ右クルヲ以テ邊ニ寇スルヲ謀ル
トヨリ急ニ討テ之ヲ平ラケルナリ
 九年 (西曆一四六四) 正月、朝賀ニ野人與カレ
 十二年 (西曆一四六七) 魚有沼、康純等、命シテ討テ
 建州衛ノ李滿住ヲ斬ル、明朝ノ援ヲ求ルニ由ルナリ、
明人
スル所ニコレハ此時、童倉ハ僞ニシテ北京ニ送ラシメタルリ童倉ハ即
チ童倉倉ナリ 童倉ハ海ニ朝鮮ニ往ルテ以テ明にニ悉スルノ嫌疑アリシ者
ナルヲ以テ明人ハ之ヲ殺セルナリ 因リテ思フニ李滿住ノ李氏ヲ稱スルモ或
ハ朝鮮王ノ賜ヲ得ナリシモ知ルベカラズ 童倉ハ情朝ノ遠祖タルニシテ其ヤリ
察セルニ形跡アリ尚後考テ後ツ、其時明軍ハ、蘇子何ヲ渡リ一城ニ至レ
リ未ダ今ノ正清門附近ニ氷嶺ヲ踏エザリシニ似タリ而シテ朝鮮ノ兵ハ
豆満江隔ヨリ進ミ鴨綠江ヲ渡リ佟家江邊ニ深入シテ建州女直根柢地
ヲ覆セルナリ
 成宗二年 (西曆一四七一) 野人兀狄哈等來朝、野人等曰ク
 本土ノ人咸ク聖德ヲ仰ギ之が氓タラシメトヲ願フト
 十年 (西曆一四八〇) 明朝、求ニヨリ尹躬高、金燦
 等ヲシテ建州女直ノ賊穴ヲ搗カシメ其ノ凶惡ヲ焚湯
 乙虜ニシテシテ遼東人ヲ得テ還リ俘ヲ明朝ニ獻ズ

十三 (精製屋製)

MT

14133

10382

MT

14133

10381

二十三年(西暦一四九三) 北征都元帥許琮六鎮に至り
 尼了車ヲ討つ尼了車戰つて遁じ建州大震つ
 中宗元年(西暦一五〇六) 咸北節度使ニ諭スニ厚く野人
 ヲ待シ國家ノ藩籬多クシムベキヲ以テス
 十三年(西暦一五一七) 平安道節度使李之芳ニ命
 シテ割延ノ野人ヲ驅逐ス 割延ハ鴨綠江
 南ノ地ナリ
 明宗九年(西暦一五五四) 草車ノ野人韓骨不等兩次
 入寇ス撃つテ之ヲ却リ
 宣祖十六年(西暦一五八三) 北界ノ藩胡亂ヲ作シ慶源府
 ヲ陥ル北兵使李濟臣穩城府使申監等之ヲ復シ更
 ニ三路ニ分ケテ豆滿江ヲ渡リ金得難安豆里者中島
 麻田塢尚加巖干乙其車汝邑浦多通介洎諸部
 ノ巢穴ヲ掩撃シ斬首三百級軍ヲ全クシテ還ル
 今年 賊胡栗里南里尼湯介等潼關鐘城
 等ニ入寇ス撃つテ之ヲ却ク藩種悔ミテ欵ヲ納ム惟ダ
 胡里南里尼湯介遁レテ深處ニ入り復テ邊ニ寇ス
 二十一年(西暦一五八八) 北兵使李鑑將ヲ遣シテ
 江ヲ渡リ楸島時鏡ノ叛胡ヲ襲ヒ其家ヲ焚キ斬首
 甚ク衆シ
 二十七年(西暦一五九四) 北兵使鄭見龍討シテ
 易水部ノ叛胡ヲ威ス
 三十八年(西暦一六〇五) 忽刺温ノ野人入寇シテ
 潼關堡ヲ陥ル令使ヲ殺シテ去ル北虞候成祐吉
 軍ヲ率テ夜江ヲ渡リ撃つテ之ヲ敗ル
 以上ノ事蹟ニ徴スレバ豆滿江北ノ女真人ガ朝鮮トノ關係
 ハ明朝ニ比シテ更ニ深キ者アルコトヲ知ルニ難カラザルベシ其

十三 桂樓屋製

MT

14133

10384

MT

14133

10383

ノ豆満江ヲ降りテ征伐スルコトノ屢次タル見ハ當時江北ノ地
 ガ支那ノ疆域ニ屬セザリトハ明カナリ所謂藩胡トハ即チ女
 真人ノ朝鮮ニ竊靡スル者ノ稱ナリ東國輿地勝覽ハ成
 宗ノ十一年即チ明ノ弘治十五年(西曆一四八〇)ニ成リト書
 ナルガ會寧ノ慶源ノ穩城等各府ノ城下ニ多ク豆満江北
 ノ地名ヲ舉ゲ而カテ往々現今ノ地理ト符合シ使シテ杜撰
 ニアラス且ツ江北ノ燧燧ヲ置キタルコトヲモ載セタリ會寧府
 鎮下ニ燧燧燧 富寧府ノ于無介燧燧鐘城府ノ南青倫燧燧即チ是
 レナリ當時蔚山ノ富寧府ニ屬セル堡ナリ
 往時統治權ノ意義明白ナリ且ツ接境ノ地ハ野蠻ノ人
 種ナルヲ以テ其ノ疆界線ヲ今日ヨリ正確ニ推定セシトハ
 能シ難キ所ナルモ其地理ノ比較上韓人ニ最モヨク知ラシム
 ハ即チ其勢力ノ最モ多ク波及セシトテ證スル者ニシテ支
 那ニ在リテハ明代ノ地志ハ勿論清朝ガ東海陸集部
 等ヲ征服シ支那ヲ一統シテ後ニ編纂セラレタル乾隆四十
 七八年頃ノ欽定盛京通志ト雖モ其ノ詳明ナルコトハ輿
 地勝覽ニ若カズ但チ乾隆二十六年ノ序アハ齊魯南ノ
 水道提綱ハ豆満江沿岸ノ記載ヤ、親ルベキ者アハ其ノ
 往々輿地勝覽其他韓人ノ記載ト符合スルヲ見レバ韓人
 ノ此地方ニ関スル知識ガ支那人ニ劣ラズト三百年ナリト
 イフコトハ争フベカラザル所ナリトス

MT

14133

10386

MT

14133

10385

十三 桔梗屋製

二、清韓境界ノ交渉

清韓境界交渉ノ起源ハ清朝ガ未ダ支那ヲ一統セザル以前ヨリ
萌芽セリ清朝太宗ノ天聰元年(西曆一六三七)朝鮮ト戦ヒ和
ヲ講ギ以後、崇徳ノ年間ニ涉レル兩國ノ書ノ記録ハ藏シテ盛
京ノ崇禎朝中ニ在リ其記ニ所ノ據ルハ講和後直チニ清
帝此時ハ全圖ハ要ホセリノ平安道ノ義州中江及ヒ咸鏡道ノ
會寧ニ於テ互市ヲ開クコト及ヒ清境ヲ逃レテ韓境ニ入レル
者ヲ送回ス事等アリキ朝鮮ニテハ義州開市ハ直チニ之
ヲ諾シタルモ會寧ノ開市ハ終リテ辭插ヲ設ケテ之ヲ避
ケントセリ天聰三年六月、朝鮮國來書ヲ見ルハ此年ニ
至リ遂ニ開市ヲ許セタル者ノ如シ是ヲ先キ天聰二年三
月ノ來書ニ云ク

MT 14133

本ト相討ラズ但前ニハ遼胡ノ六鎮ニ居ル者甚ク多ク故ニ
國中ノ高賈其地ニ濼集シ以テ物貨ヲ通ズ今ハ則チ遼
胡絶テ種落ナシ交市ノ行ハザルコト久シ貴國何ゾ能ク此
間ノ曲折ヲ悉サレヤ

MT 10388

而シテ三年六月ノ來書ニハ
即チ北邊守臣ノ馳報ヲ見ルニ金人十餘名アリ来リテ豆
滿江一帶ノ地方ニ至リ託テ回汗ノ命令ト稱シ二十年
前茫昧據テキノ負債ヲ討索スト間キ来リテ殊ニ怪訝切
ナリ蓋シ江邊ノ番族我國邊民ト居任相迫ク往來間
ナキ者ニ亦年ナリキ貴國ニ馳去ラレテヨリ疆域殊絶シ
聲聞相通シ及ヒ今兩國和ヲ講ジ會寧ノ開市ノ事
アリ其人等便チ巧計ヲ生ジ回汗ノ命ヲ矯假シ時ニ乘ジテ
来リ侵ス料ヲナリキ貴國法度ノ嚴ナルヲ以テ乃チカクノ

MT 14133

十三 楊慶雲

如平事アラントハ景歲番為撤去せん時ハ朝カニ向ク貴國
 ノ意、蓋シ鮮ノ自ラ鮮、番ハ自ラ番、相侵雜スルコトナク
 相侵擾スルコトナク其區別截然タラント欲スルナリト乃チ
 二十一年ノ後、於テ之ヲ據ル事ヲ提議シ以テ條約ヲ啓ク
 此路一タビ開カバ上ノ氏、殆ト堪フベカラザル者アラシム
 トアリ其他前後ノ文書、徴スルニ滿洲ノ始メテ興リ東海邊
 集部、及雨露部等ヲ征服セシ頃、其ノ征戰毎ニ多ク新
 タニ得タル同種地方ノ夷人ヲ驅リテ其ノ根據地ノ兵備ヲ
 盛ニセンガ為、二百年來、朝鮮ノ邊境ニ住シ雜居婚嫁セシ
 豆滿江邊ノ部族也書ク之ヲ撤去セシメ以テ其地ヲ宜シラ
 スルコト二十一年ニ及ビタルが夷人ハ猶ホ朝鮮ノ接邊厚待ヲ
 慕ヒ逃レテ韓境ニ來ル者甚ク衆ク因ッ滿洲カ此ノ邊上ヲ
 宜曠ニせん結果、明將毛文龍ノ部下ノ若キ鴨綠江ヨリ溯
 リテ無人ノ境ヲ過ギ長白山ヨリ寧古塔地方ニテ侵入シテ滿
 洲ノ背後ヲ却カスノ奇策ヲ取リ漢人ハ勿論滿洲人サレモ之ニ
 内應スルコトアリシカバ清朝ニテモコニ政策ヲ一変スルノ必要ヲ
 感シ一面ハ其ノ北氏ノ送回ヲホシ一面ハ互市ヲ開キテ邊
 境ノ查察ニ便シ又兩國民越疆ノ禁ヲ嚴シテ以テ胡亂
 ノ弊ノ挽入ヲ防ガントせんが如シ今頃ヲ遊シしが為、一々其例證
 ヲ舉ゲザルモ此ノ推斷ハ實ニカノ奉天秘庫ノ舊檔冊ヨリ
 得タル新事實ニシテ兩回境界沿革ノ起源ニ一ノ光明ヲ看
 出シタリ特書スルハ至用ニテラト信ズ

MT 14133 10390 MT 14133 10389

(二) 十三 粘梗屋製

江南に於て邑鎮ヲ有せり以て此頃より已に境ヲ越エテ人
参ヲ採ル者アリ清人ハ人参が其ノ財源ノ一大宗タルヲ以テ毎
朝鮮が其ノ人氏ノ越疆ヲ嚴禁セシメテ其ノ而レテ豆満
江北ハ自然ニ中立地ノ状態ヲ成ス至レリ此レ朝鮮ニ在リ人
其ノ竊奪地ノ番民ヲ失ヒタル者ニシテ之ニ不満ナル情ハ文
書ノ語氣ニ露ハレドモ其ノ弱勢ハ居ルヲ以テ之ヲ奈何ト
モス能ハザリナリ

然レニ會寧開市ノ結果トシテ滿州人ハ常ニ韓人ニ勒索シ
官吏ノミナラズ高買ニ至ルデ韓境ニ在リテ其ノ供食リ
要ホシ若クハ物貨ノ價格ヲ不當ニ低下セシム等肆横ノ行
為多カリシカバ朝鮮ニテハ益々之ヲ厭ヒ且ツ清軍が西ア
明軍ト戦テ免タザリシ時朝鮮ヨリ送レル禮物ノ數遽カ
減少セシトアル等韓人固有ノ醜態ヲ見ハセシトアルヨリ

兩國ノ向ハ日々轉睦ヲ失ヒ會寧ノ開市セハカクレク實行セラ
レバ朝鮮ノ商賈ガ潛カニ滿洲ノ内地ニ入り人参ヲ偷採ス
者ハ天興城此地ハ五六十里ノ地ニ及ブ者アリテ容易ニ禁
断セラズ終ニ宣宗徳元五年(西曆一六三六)ニ至リ清ノ太宗
ハ大兵ヲ舉ゲテ再ビ朝鮮ヲ伐ケ明年ニ至リ朝鮮
ノ仁祖王ハ力盡キテ降服シ従前ニ在リテ朝鮮ト
明トノ關係ヲ父子ニシトシ清トノ關係ヲ兄弟ニ比セン者
一變レテ全ク明朝ト絶ケテ清朝ニ服事スルニ至リシ
カバ朝鮮ハ一意恭順ヲ主トシ其後ニ生ゼン越界事
件ニ關シテモ毎ニ所謂上國ノ怒ニ觸レザラシコトヲ之レ務メ
慣習性トナリテ其ノ當然ノ主張ヲ保持スル念ヲ喪失シ
タルが如キ者アレバ此ヨリ以後ハ於ケン兩國ノ交渉ヲ觀察スルハ
須ク其ノこころ得ザル事情アルコトヲ諒シテ斟酌スル所ナルベカラ

(三十三) 桔梗屋製

MT 14133

10392

MT 14133

10391

ザルナリ

崇徳以後に於ケル豆満口地方ノ交易ハ通文館志ニヨリ崇徳三年ニ會寧ノ於テ寧古塔人トノ間ニ開カレ因七年ノ也春人モ亦来リ唐憲三十二年(西曆一六九五)ハ烏喇人モ亦来リ貿易ヤリ慶保に於テハ仁祖ノ二十四年清ノ順治二年(西曆一六四六)ニ嚴丘今ノ露領肅親達胡等ノ人ト貿易ヲ開キ存宗王ノ五年即チ順治八年ハ枯兒凱虎兒哈ノ新戸人モ亦来リ是ニ於テ順治十三年ニ交易ニ開スル期限等ヲ定ムルコトナレルガ是レ皆清國ノ強制ニヨリ心ヲ盡モ之ニ應ジタル形跡アリ

此間ニ於テモ界ヲ越エテ材木ヲ伐リ若クハ人參ヲ採リ又人命ヲ殺傷セル等ノ事件ハ毎年絶エザリシガ主トシテ韓人ノ犯罪ノ記録ニ存シ清人ノ犯罪ハ見レ所ナシ也其申事

體ノ稍重大ナリトスベキハ清國ノ駐防協領勒楚一清人ノ記録善ガ自ラ奉レテ鴨綠三道溝ニ在リテ輿圖ヲ繕畫セル際

朝鮮人ニ銃傷セルタル案件ニシテ事ハ肅宗王ノ十一年即チ康熙二十四年(西曆一六八五)ニ在リ清ノ聖祖ハ震怒スル勅諭ヲ朝鮮ニ下シタルガ究問ノ結果該犯人等ガ懲カニエ

テ越エテ清人ニ矢ヲ放ケテ馳逐セルタルヨリ捉ヘシムコトヲ恐レテ銃ヲ放ケテ逃レタルコトヲ明ラカシタルモ犯人ハ斬ル處セシ

朝鮮地方官モ嚴罰セラレタリキ

肅宗王ノ十七年(康熙三十二年)西曆一六九三(清國禮部ヨリ送リ來レル咨文ニヨク)

今一統志ヲ纂修スルニ載スル所ノ城地山河盛京ノ寧古塔ト東冊豆ニ添シテ發祥ノ地關係甚ク大ナリ今差

ス所ノ大臣查山等冊豆モツテ前往詳閱セントス而シテ

四十三 楊棟屋製

MT

14133

10394

MT

14133

10393

鴨江ヨリ土門ニ至ル南岸一帯ハ俱ニ朝鮮ノ驛站ニ係
 ルハ俱ニ豫備ヲ行ヒ大臣ノ往キ看ルヲ俟テ知路人ヲ
 指引セシメヨ等ノ因テ具題セシニ議ニ依レトノ旨ヲ奉
 タリト
 コレヨリ朝鮮ニテハ同知金瑯漢ヲ北京ニ專差シテ
 謹テ咨會ニ依リ驛站ヲ豫備シテ心ヲ竭シテ供奉セン
 トスルモ路甚ダ險絶ニシテ人馬ヲ通ズ若シ先ヅ報ゼンバ
 恐ラクハ時ニ臨ニテ疎忽ナルノ責アラシ
 トノ旨ヲ禮部ニ咨報セシニ禮部ハ更ニ清帝ニ上言シテ
 臣等往看大臣ト會議シ朝鮮東官ニ問ヒシニ惠山ハ
 徑過ニ難シ別處ハ以テ繞行スベシ而カモ只ダ沿江閱看ノ
 ト、認メタルヲ以テ當テ別處ニ熟語セル人ヲ查スルコトヲ
 ナサザリキ等ノ事ヲ答ヘタリ原行ノ咨文内ニハ知路ノ
 人ヲ預備セヨトアレドモカワテ惠山ヲ指定シテ言ヘルニアラズ
 又原咨文ニハ驛站ヲ預備セシメヨトイヘルモカワテ原ト
 驛站アリトハハズ東文ニ云フ荒絶ニシテ驛ナレト且ツ
 前ニ地方ヲ大量センガ為ニ住キシ時長白山ヲ彼國ニ到
 リシニ彼ガ巡邊ノ人ヲ見タリ今該國ハ聖旨ヲ欽奉シテ
 邊カニ移咨シテ推諉セルハ殊ニ不合ニ屬セリ應ニ前咨ニ
 照シテ施行スベシト
 イヒシニ清帝ヨリ地方ノ險隘ナルコトハ事實ナラシ前ニ勸楚
 鏡傷事^時ノ情官^時モ亦當テ地方ノ險隘ナルヲ奏セシメトアリ若シ其
 地方ニ赴カバ朝鮮國人モ往看大臣モ俱ニ徒ニ勞苦スベシ我
 部ト往看大臣ト會查セル結果、該國既ニ土門江地方ハ險
 阻ニシテ道路崎嶇タリト稱スレバ必ズモ朝鮮地方ヨリ前

十三 粘板屋製

MT

14133

10396

MT

14133

10395

去スルモ可ナシトノコトヲ上言シテ議ニ依レトノ旨ヲ奉ジ
 たり是レ土門は境上問題ノ發端ナルガ事ニシテ韓國ニハ一
 時ノ葛藤ヲ免カレ實地踏査ヲ爲スニ至ラザリシガ如シ
 後二十年ニシテ李萬枝等殺人ノ案アリ康熙帝ハ遂ニ其
 機ニ乘リテ定界ノ事ヲ決行シタリ踰界案件ハ時トシテ絶
 トナカリシガ南宗ノ三十六年、康熙四十六年（西曆一七一〇）韓
 人李萬枝江ヲ越エテ人ヲ殺セル事ヲ平安監司ヨリ馳啓セシ
 ヲリ南宗ハ行司直金弘社ヲ專差シテ清國禮部ニ咨報
 セシニ康熙帝ハ部内ノ賢能ナル章宗一員、盛京章宗一
 員ヲ差シテ鳳凰城ニ往カシメ朝鮮國官一員ニ會同シテ
 殺人地方ガ上國界内ニアリヤ朝鮮國界内ニ在リヤヲ查明
 セシメ詳議具奏セシトノ諭示ヲ下シタリト回報ニ接シ嗣デ
 烏利德管務克登、兵部郎中常恭、禮部主事何順盛
 盛京禮部侍郎、崔爾得、副都統托留等ヲ派遣シ奉リ審
 セシタリ明年南宗ハ已ニ近臣ヲ派シテ地方官ト共ニ罪人ヲ搜捕
 シ事實ヲ糾明セシモ清官ガ鳳凰城ニ來ルベキヲ報リ得テ
 更ニ刑曹參議宋正明ヲ鳳凰城ニ派遣スル由リ咨報セシガ
 為ニ刑部院正金慶門、北京ニ專差シタガ北京禮部ニテ
 ハ犯人ヲ得ザリトノ咨報ヲ得テ執河ノ行官ニ馳奏セシニ康熙
 帝ハ此事ヲ奏セシガ爲ニ來ルル朝鮮國官ヲシテ鳳凰城ニ往
 キテ等價セシムトノ諭ヲ下シ更ニ禮部員外郎、偏頭ヲ差シテ
 穆克登等ト會同詳議セシムトノ命ヲ下シバ偏頭ハ金慶
 門ト共ニ來リテ鳳凰城ニ赴テリ然レニ當時穆克登等ハ已ニ鳳凰
 城ニ到リテ韓官ト會查シ穆克登ハ更ニ江北岸ヨリ宋正
 明、義州ヨリ俱ニ渭原ニ至リテ同シク殺人地方ヲ審査シ咨文
 ヲ宋正明ニ付シテ歸ラシメタリ咨文ノ略ニ曰ク

六十三 桂樓屋製

MT

14133

10398

MT

14133

10397

此案殺サレル人ハ匪類輸越ニ非ザルモ爾等朝鮮官ト因
ク殺人ノ處ヲ查明シ該國王ニ交付シテ完結スル其ノ治江
一帶ニハ吏ニ出入偷越ノ路アルヲ免カレズ仍ホ查明ノ行ハズ
等ノ上諭ヲ飲奉リシタルヲ以テ查スルニ渭原郡北嶺頂ニテ二
名ヲ殺シ江ヲ過ギテ昭諭德ニテ三名ヲ殺シタリト事ナレモ
屍骸ニ余ラ無シ犯人等モ並ニ別供ナシ應ニ交与シテ通行
スルニ云々ト

カクテ仍ホ江岸ヲ溯リテ廢郡界ニ至レルヲ以テ肅宗ニ參判
俞集一ヲ遣ヒテ接伴セシメ免ニ穆克登ハ林土ニ在リテ再
ビ昔アリテ會查セシムコトヲ南岸ヨリ鳳凰城ニ還リ
他ノ查官ヲ留メテ自ラ馳セテ熱河ノ行在ニ赴ケリ穆克登カ
境界踏查ノ命ヲ受ケルハ喜ム此時ニ在リモテ康照
五十年帝ガ内閣大學士等ニ下セル上諭ニ曰ク

天上ノ度数ハ俱ニ地ノ寛大ト體合ス用時ノ尺ヲ以テ之ヲ算
スルニ天上ノ一度ハ即ケ地下ノ二百五十里アリ今時ノ尺ヲ以テ
之ヲ算スルニ天上ノ一度ハ即ケ地下ノ二百里アリ古ヨリ以來
輿圖ヲ繪ク者俱ニ天上ノ度数ニ依テ以テ地理ノ遠近
ヲ推算セ故ニ差悞スル者多シ朕前ニ特ニ推算善畫
人ヲ遣ヒ東北一帶ノ山川地理ヲモリテ俱ニ天上ノ度数ニ
照シテ推算シ詳カニ繪圖ヲ加ヘテ之ヲ視ルニ混同江ハ長
白山後ヨリ流出シ船廠都打牲烏拉ヨリ東北ニ向テ流シ黑
龍江ニ會シ海ニ入ル也今中國地ニ係ル鴨綠江ハ長白山ヨ
リ東南ニ流シ出テ西南ニ向テ流キ鳳凰城ト朝鮮國ニ義
州トノ兩間ヨリ流レテ海ニ入ル鴨綠江ハ西北ニ中國地方ニ係リ
江ノ東南ハ朝鮮地方ニ係リ江ヲ以テ界トス圖冊ハ長
白山東邊ヨリ流出テ東南ニ向テ流シ海ニ入ル圖冊江ハ西

七十三 持續屋製

MT 14133

10400

MT 14133

10399

南朝鮮地方に係り江ノ東北に中國地方に係る亦江ノ東
界トス此處俱に已に明白ナリ但ダ鴨綠江圖們江ニ江ノ間
ノ地方に之ヲ知ルコト明ナク即チ部員二人ヲ遣シ鳳凰城
ニ往キテ朝鮮人李萬枝ノ事ヲ會審セシ又打牲烏拉
總管穆克登ヲ派出シテ同ジク往カシ伊等訓令ヲ請ヒ
シ時朕曾テ密諭シテ云ク爾等此行并セテ地方ヲ查看ス
ベシ朝鮮官ト同シク江ノ上リモシ中國地方行スルニ即
チ朝鮮官ト同シク中國所屬地方に在リテ行ケ或ハ中國
所屬地方に阻隔通セザル處ト云ハ爾等保シ朝鮮所屬
地方に在リテ行ケ此使に兼ジテ極盡忠慮ニ至リ諷刺
ヲ加ヘ務メテ邊界ヲモツテ查明シ來リ奏セシ想フニ伊等
已に彼等起程前往セシ事ヲ知ルニ此處地方情形庶ク明白
ナリ得ント

此上諭ニヨリハ當時清人が此地方ノ情形ニ暗カリ推知スベク韓人
ノ智識ヤ、確實ナルハ此邊界ヲ越ルニ犯人ト稱セラル
者ガ韓人ニ多カリシモノハ此地方ノ情形ニ明ラカナリシニ由ルナリ此
時殺人犯案ハ已に止リシテ審事官ハ歸還シ命セラルルガ後
友奎等が踏査シ冬期ノ際ニ降セルヲ以テカ此ト斗ニ成功セザリヤ當時
ノ上諭ニヨリ

前ニ打牲烏拉總管穆克登等ヲ遣シ鳳凰城より長白
山ニ至ル邊界ヲ查看セシメラルニ伊等スデニ查ル所地方ノ繪
圖ヲモツテ呈覽セリ路遠ク水大ナルニ因ルガ故ニ未ダ指シ所
ノ地ニ至ル能ハズ東春氷解ル時ニ於テ義州より小舟ニ乘
ジ流ニ溯リテ上リ行くベカザル處ニ至ラバ陸路ヨリ圖們江
ニ向テ查シ去ラシム但シ道路遙遠ナルヲ以テ萬一中途ニ
阻アズバ朝鮮人ヲシテ供應セシメヨク此ノ情由ヲモツテ該部

八十三 粘稷屋製

MT

14133

10402

MT

14133

10401

シテ来リテ朝正セシ朝録圖官員ニ曉諭セシ書文ハ恰
シ帯心テ伊ガ王ニ付セシヨ

コノ上諭ハ欽定盛京通志ニ據リテ録セシ者ニテ通文館志
ハ後ノ一論ヲ載セテ圖例ヲ土門ニ作シリ蓋シ原ト土門トアリ
シテ通志ハ之ヲ改メシナリ

明年南宗三十八年 康熙五十二年朝鮮ニシテ参判權尚游ニ遣ヒテ西路ニシ
穆克登ニ接伴セシムルニ穆使が北道ヨリ中和到ルコトヲ聞
キテ權尚游ハ往ケテ還リタレバ成鏡ノ監司ノ状啓ニヨリ先ツ司
澤院正金慶門ヲ厚州ニ送り以テ穆使ヲ候セシ改メテ参判

朴權ヲ以テ接伴使トシ成鏡監司李善博ト因ヒテ厚州ニ迎
ヒテ穆克登等ニ興京邊ヲ道ク爾キ十小舟ヲ送り頭道溝ニ
出テ鴨綠江入り水陸並進ニ湖行十日ニ至テ厚州ニ至リテ朝
録ノ伴使監司等相會シ四日ニシテ惠山ニ至リ舟ヲ捨テ山

に登リ行クコト九十餘里、道益々峻嶮ナリ其ノ副侍衛布蘇倫
等及ビ伴使監司以下ヲシテ徑路ヨリ茂山ニ期會セシメ自ラ通
官筆帖式並ニ家丁二十人ヲ率テ朝鮮官官員、知路三人ト五
日糧ヲ齎ラシ又行クコト二百餘里、江源ヲ窮メテ白頭山頂潭

水ノ邊ニ至リ石ニ刻シテ碑ヲ立テ其文ニ曰ク
大清烏刺總管穆克登等奉旨查邊至此審視西為鴨綠
東為土門故於分水嶺上勒石為記康熙五十一年五月十
五日筆帖式蘇爾昌通官二哥朝鮮軍官義復趙台相

差使官許標朴道常通官金應憲金慶明
碑ハ高サ二尺廣サ一尺餘ニシテ額ハ大清ノ二大字ヲ横書シ正面
ハ九行ナリ石質ハ青、琢シテ而シテ磨セバ

朝鮮軍官李義復が記事ニ云ク康熙五十一年五月接伴
使朴權觀察使李善博、盧頂嶺ニ會シ議シテ曰ク兩國ノ

九十三 粘慶製

九十三 粘慶製

MT

14133

10404

MT

14133

10403

界ヲ定ムルコトハ何等ノ重事ナリ而シテ皆老病日侵ニ艱
 辛也到ル貴ニ徒歩ニ難シヨツテ天坪ニ留テ萬ニ李義
 復趙台相ヲ以テ烏刺惣管穆克登ニ伴接シ往テ定界
 ヲ審ニセシム分水嶺ニ登リ留連スルコト多日分水嶺ハ形勢
 ヲ周覽シ石ニ勒シテ記ト為ス清使顧ニテ我人ニ謂フ曰ク
 爾カ國地ヲ得ルコト頗ル廣シト大韓疆域考ニ出ツ
 又コノ時穆克登ガ清帝ニ上奏セン文ニ曰ク本年四月二十九
 日厚州江ヲ離ルルコト三十里ニシテ朝鮮國王遣ス所接伴使
 朴權威鏡道觀察使李善傳アリ東リ接ス三十日江ヲ
 渡リ朝鮮馬ニ騎リ其北鄙ヲ循リ行クコト二百餘里惠
 山ニ至リ劔川道溝ニ至ル騎從ヲ約シ只數負ヲ帶ビ白頭山
 ニ登リ池水ヲ觀ル西ハ鴨綠タリ東ハ土門タリ遂ニ分水嶺上
 ニ於テ石ヲ立テ記ト為ス北流水何クニ向クヲ知ラズ
 是レ烏龍江ナリト同上

一行ハ仍ホ土門水道ヲ以テ下ル約行クコト三百里ニシテ茂山ニ
 至リ又四小舟ヲ造リ水陸流ニ從テ下リ慶興海口ニ至リ還リテ
 慶源ニ至リ江ヲ越テ厚春ヲ去リ穆克登ハ畫師ヲ遣ヒテ
 隨處ニ山川ヲ繪畫シ界域ヲ繕寫シ二本ヲ圖シ一ハ清帝ニ
 進メ一朝鮮ニ進メ又朝鮮伴使監司ニ移文シテ曰ク
 我親シク白山ニ至ル鴨綠土門兩江俱ハ山ヲ源ヲ發シ東西分
 流ス原ト江北ヲ定メテ大國ノ境トシ江南ヲ朝鮮ノ境トシ吾
 年ニ久シク議セザルコト外分水嶺ニ在リテ碑ヲ立テ土
 門ノ源ヲ審視スル流レテ數十里ニ至リテ水痕ヲ見ス石縫
 ヲ暗流シテ百里ニ至リテ方サニ巨水ヲ現ハス此ノ水ナキ處
 人邊界ヲ知ラズ往來境ヲ越スル所以ナリ如何ニカ設立堅
 守シ人ヲシテ邊界アリテ敢テ相犯サズルコトヲ知ラシムハ庶少

十三 積慶屋製

MT

14133

10406

MT

14133

10405

ハ以テ皇帝が生民ヲ軫念スノ至意ニ副スベク且ツ你我兩邊
事ナカラシムガ爲ニ商議ス

伴使監司ハ甲子年移使ヲ移文ニヨリテ或ハ土ヲ築キ或ハ石ヲ聚ル
或ハ柵ヲ樹テ農隙ニ乘ジテ役ヲ起スル等ノ由リ以テ移克登
ニ申復セリ

通文館志人物篇曰ク金指南字ハ季明岑城ノ人(中略)壬
辰帝鳥喇恩管穆克登ヲシテ行々鴨綠江以上土門江
海ニ入ル處ヲ審カニシ邊界ヲ查明セシム是ヨリ先秋東兩
江ヲ界トスルコトヲ知ルト雖モ而カモ白頭原注中原人ハ此山ヲヨリ
謂フ長白山也
以南長白ヲ以テ幅員幾シト千餘里古ヨリ荒廢ノ興
地載ル所語ニ謬語多シ故ニ朝野駭惑シテ過慮多ク
文章論說スルニ至リ接伴使朴尚書權啓シテ公ヲ帶ビテ
往キ與ニ論辯ス公穆ニ謂フ白ク夫レ兩江ヲ界ト作スハ古ヨ

リニ定メリ而シテ兩江ノ源ハ白頭山頂ノ潭水ヲ出ツ潭
北上回ノ界トシ其南ハ即チ各地ナリト及覆曉告シレバ
穆果シテ大ニ悟リ遂ニ道ヲキテ山巔ニ至リ碑ヲ潭畔ニ立
テ以テ界ト爲シ又山形疆域ヲ畫キ二本ヲ作爲シハ皇
帝ニ進ノ一ハ本回ニ置キ以テ左契ト爲セリ東方岳山
下ニ及ビテハ我人アリテ界ヲ越エテ木ヲ斫リ其山ヲ楮ニスル
コト數十里東使ニ覺ラシ事例ヲレガシトセシニ公怒辭
諭解セシム移之ガ爲ニ不問ニ置ケリ

又曰ク金慶門字ハ守謙指南ノ子ナリ壬辰北使穆克登
来リテ白頭山地界ヲ定ムルヤ公父子俱ニ別遣ノ命ニ應ジ
源ヲ窮メ巔ニ陟リ區域ヲ指畫シ應對辯シテ且ツ直
ナリ穆爭テ能ク知シテ輒チ公カ言ニ從ヘリ
康熙年間ニ於テ定界事件ハ暫クコトニ一段ニ落リ止メタルモ

十一十三 格屋製

MT

14133

10408

MT

14133

10407

當時探査の因り十分なる能らざるに因り、兩回遣使、認りて三萬江
原トせん白頭山發源ノ水爰テ松花江ノ一支源ナリシガ爲メ
端ナリ後年ノ終結リ胚胎スルニ至リ

其後肅宗ノ四十年、^{十三年}清國寧古塔將軍管内ノ安
都立他木奴、寧古塔那ノ二地ニ於テ兵氏ノ屯リ設ケテ方
屋高鋪、^此州者アリシガ此二地ハ朝鮮ノ慶源ト江
隔テ、二里許リニ過ズカハ訓式、對岸三里許ニありガ
ニヨリ朝鮮ニテハ内務院正金慶門ヲ專差シテ禮部
咨報スルニ只一水ヲ隔ツルノ地ニシテ空曠ノ時スラモ猶
お奸民ノ禁アリ冒シテ換越スルコトアリテ患フルニ以テ今至
テ近ク相接セバ邊界ノ致シ易カラシ煩シクテ轉達シテ意
外ニ事ヲ生ズルノ患ナカラスコトノ意ヲ以テシタルニ明年
ニ至リ清國ニテハ遂ニ其請ヲ納メテ方屋高鋪ヲ折毀

シ且ツ尔後江邊ニ於テ方屋作リ地ニ種エルトコトヲ嚴禁
シテリコレヲ見ルニ江邊ニ於ケル或ハ非難ノ地ニ當
時コレヲ中立地ノ如クニ取扱ヒタルコト益々明白ナリ
越界ノ犯人ハ此後ニ於テモ絶エルトナク韓人ノ犯罪ハ大概人
多ク倫初ルニテリシガ犯人ハ毎ニ江邊ニ自來首セシ地方官
モ亦革職セラルコトヲ以テ常トシ清人ハ朝鮮官吏ヨリ情
因ニ會解スルコトヲ以テ常トシ以テ近年ノ及ビテリ此外ニ於テ
稍ヤ特異ナリシ事實ハ朝鮮今王ノ元年甲子(西曆一八六四)
慶源府ノ地方官ガ譯者ノ協領ニ行文シテ兩回交易官
房ノ焚ケタルヲ修繕セシガ爲メ圖們江界ヲ越テ材木ヲ
斫伐セシコトヲ交渉シタルニ譯者協領ハ一面回答ヲ与ヘ
面ニテ吉林將軍ニ稟報シ吉林將軍ハ奏准ヲ經テ木
匠ヲシテ材木ヲ伐採セシコト格外ノ體恤ヲ稱シテ之ヲ慶源

十二 十三 結核屋製

MT

14133

10410

MT

14133

10409

地方ニ賞給シタルコトアリ然レニ慶遠地方官が直傳ニ環春協
領ニ行文タル定例ニ符セザルヲ以テ清國禮部ハ嗣後邊
界ノ各官が公事ニヨリテ行文セシハ務メテ定章ヲ恪守
シ各其ノ政府ヨリ交渉スルハ其次ノ事ヲ以テ例ト為スコトヲ
得ルニ旨ヲ地方官ニ轉飭スシトシ咨文ヲ朝鮮ニ送りタリ
此時吉林省ニテハ嘎哈哩河圖滿江はク大河ニシテ又豫雅河トイフヲ兩岸ノ林木
ヲ斫リテ朝鮮地方官ニ交付シタリ

朝鮮ノ今王十八年清國光緒七年我明治十四年ニ至リ清國ニテハコレヨリ先
キ教年盛京地方ノ輝陽鳳凰邊外ノ荒地同壑ヲ開放
セシ例ニ倣ヒ土門江東邊ノ荒地ヲ同壑セシトシ禮部ヨリ左ノ
咨文ヲ朝鮮ニ送り

上諭ヲ奉ル吳大澂が奏セル土門江東北岸ノ荒地ハ舊例
章ヲ變通シテ辦理同壑セシコトヲ請フ著ノ旨ハ議ル

所ニ照シテ行ハレハ朝鮮國王ニ其次ノ同壑ハ官ヲ經理シ
考メニ俾バ飭シテ邊界官ヲシテ疑慮ヲ生ズルコト勿クシ
シコトヲ咨會セヨ云々ニ銘安吉林時吳大澂ヲシテ在吏ヲ
督飭シ居民ヲ約束シテ界ヲ越エ事ヲ濫スリ得ルコトナカク
モ邊界ハサルアハ嚴ニ從テ懲罰セヨ云々欽ノトヨリテ知照ス
云々

是レ實ニ清國ノ邊界政策ノ一變ニシテ從來國境ニ中シテ空
地ヲ留テ以テ邊民ノ往來ヲ禁ジテ定例ヲ破除シタル者ナルハ
勿論ナルカ此時朝鮮ノ人民ハ已ニ豆滿江北地方ニ移住シテ開
墾ヲナセル者頗ル衆キコトヲ發見シテ以テ明年冬吉林將
軍銘安ハ旨ニ遵ラテ土門江以西佔壑ノ朝鮮負民ヲ別遷
セシトシコトヲ朝鮮ニ行文シコトニ境界論ノ案件ハ又開始セ
ラレタリ

十三 積慶屋製

MT 14133

10412

MT 14133

10411

又明年先緒四月吉林省ノ敦化縣ニ鐘城會寧兩邑ヲ越
 邊セル韓民ヲシテ盡ク帰回セシメントテ告示せんヲ以テ邊民ハ
 往テ白頭山ノ立碑處ヲ審視シ鐘城、德城、會寧、茂山四郡
 ノ人民、鐘城府使李正東ニ訴ヘテ曰ク敦化縣ハ今新ニ設ケん
 界限、其地ヲ其地ニ至ン地方、未ダ明審ニ及ズ故ニ豆満以
 北リ指シテ土門以北ト爲セリ土門ハ分水嶺ニ在リ查審スニ是
 ハ豆界ノ處ナリ豆満源、本回界内ニ出ツ清國ノ知所ニ斐
 滿國カ或ハ土門ト稱シ或ハ圖們ト稱スルハ皆由ル所アリ土門トハ
 分界處ノ土門ナリ圖們トハ慶源以下ノ海ニ入ル處ナリ本回ノ
 豆満ヲ通稱シテ圖們トス者ハ乃チ譯音ノ相殊レル也今
 豆満以テ指シテ土門以北ト爲ス者ハ乃チ入りテ土門以南ニ
 在レル清國流民ガ我民ノ春耕秋歸ヲ見テ過江ハ林ヤタル
 ヲ以テ認メテ占耕トシテ誣告せんニ因リ敦化縣ガ告示レテ之
 ヲ回歸セシムルニ至レルナリ清ノ世意ヲ以テ敦化縣ニ照會シテ
 即チ界ヲ查シテ止ニ歸セシメントテ云々ト時ニ西北徑略使
 魚允中、慶源ニ在リテ其事ヲ聞キ五月十五日鐘城、人金高
 轍ヲシテ往テ立界碑ヲ探ラシム高轍還リ報シテ後六月徑
 略使ハ鐘城ニ至リ高轍ヲシテ再び分界ノ源ヲ探ラシメ十八日
 立碑ノ處ニ至リ碑文ヲ刊シ遂ニ土門江分界江ノ源流ヲ察
 ネ七月還リ報ス徑略使ハ因テ鐘城府使ヲシテ敦化縣ニ照會
 セシメテ曰ク
 本回只豆満ノ外更ニ土門江ノ別派アルコトヲ知ル按ビテ故
 地圖アリテ據トスモ實ニ未ダ曾テ往テ流ニ溯ラズ今此
 別派ノ民人私ニ往テ源ヲ察シテ歸リテ以テ告グルコトヲ爲
 スモ遽カニ民人ノ私言ヲ以テ憑ト爲スベカラザルコト乃チ
 弁テ流シテ往テ白頭山ノ分水嶺ヲ審カシ康熙朝穆總

MT

14133

10414

MT

14133

10413

十三 粘板屋製

管ノ碑記ヲ得テ土門ノ源流ヲ踏査スニ果シテ氏人ノ
 昔ガル所ト相背シ別依テリ濱江塔懸産陸壁ナリ乃チ
 黃口嶺ニ至リテ還ル繪キテ新圖アリ舊地圖ト較閱ス
 六土門江ト分界江トノ間ニ相屬セザン處アリ曾テ之ヲ
 疑ヒシ今此二人ヲ遣ヒテ踏勘スルバ又此ノ如シ請フ貴縣ヲ
 煩ハシテ人ヲ派シ約シテ同ジク先ヅ白頭山定界碑ヲ審カ
 三土門發源ノ處ヲ知り繼テ界限ヲ查明シ疆土ヲ辨
 別スルヲ安ナリトス茲ニ氏人ノ呈スル所ニ據リテ土門
 江分界江以南ノ舊圖ヲ以テ一本ヲ移撰シ新圖一本
 分水嶺定界碑呈送一本ヲ費重送シ查照商辦シ
 テ可ナリト
 後二年^{光緒二十二年}今秋朝鮮政府ニ安邊府使李重夏ヲ以テ
 勘界使ト奉シ土門ノ地界ノ審勘セシム九月廿七日勘界使ハ
 從事官趙昌植ト會寧府到テ清國ノ派員徳玉、賈元桂
 秦瑛等來リ會々十月行テ蔚山ノ地至滿江カ三源ノ會
 スン處ニ到ル清員ハ專ラ止流ヲ查勘セシト欲シ勘界使ハ以
 為ラク先ヅ碑界ヲ勘ハ後ニ江源ヲ審カセシト屢々相争
 辨ス乃チ三路分進ノ議ヲ定ム十五日從事官趙昌植、隨員李
 后燮、金禹載、瑋春ノ派員徳玉ト往キテ紅湍水源^{水道提綱}
 ヲ勘シ隨員吳元貞ハ清國繪圖官廉榮ト往キテ西豆水源
 ヲ勘シ勘界使ハ按撫中軍崔斗衡、隨員崔五吉、權興祚ト
 清員秦瑛、賈元桂ト同ジク紅土山水源ニ沿テ直チニ白頭山ニ向
 テ晝夜間溯シテ立碑處ヲ尋ネ<sup>賈元桂ハ朝鮮官ノ碑ヲ查スルヲ
 忌ミ審問セシト欲シ深夜催シ</sup>
 行ク積雪脛ヲ没シ天地晦冥ナリ行クコト
 六十里ニシテ立碑ノ處ニ至ル 碑文ヲ撰出シ派員ト各一本ヲ持
 シ山ヲ下ル趙昌植ハ勘シテ虛頂嶺ニ至リ雪ヲ衝テ僅ニ回ル西豆
 水ノ勘員モ吹茅ニ來リ會シ同リテ後山ニ至リ韓王ニ馳啓シテ曰ク

五十三 精撰屋製

MT

14133

10416

MT

14133

10415

伏して今ラニ勘界一事、定界碑、形便ヲ以テ之リ、其ハハ碑ハ大
 澤ノ南麓十里許ニアリ、而シテ碑ノ西邊數歩ノ地ニ溝壑
 アリ、鴨係ノ源ナリ、東邊數歩ノ地ニ溝壑アリ、土門ノ源ナリ、
 石堆土堆高ヤ數尺ナルヲ建設シ、堆上林木自ラ生ジ、已ニ先
 ヲ拱スヤキ者アリ、明ラカニ是レ當年ノ標限ナリ、而シテ大角峰
 尾ニ至レバ中間溝形忽ケ窄ナリ、土岸對立、明如キ者、皆
 指ナリ、其溝江上流ノ泉水發源中、巖ニ封堆ニ近キ者、泉
 ニ紅土山水源ニシテ、漫坡ヲ横隔シ、相距ルコト、已ニ四五十里ノ遠
 ナリ、處トス、土門上下ノ形便ヲ以テ之リ、其ハハ碑、東ノ乾川ヨリ
 東ニ進ルコト、百餘里始テ水ヲ出シ、東北流ニ轉ジ、北ニ松
 花江ニ入ル、松花江ニ即チ黑龍江ノ上流ノ一派ナリ、吉林寧
 古塔等ノ地ニ皆其中ニ在リ、中國ノ領土、以為ヘラ、ク、中國
 朝鮮ノ交界ハ、本ト圖們江ヲ以テ界トス、ト、總署、禮部
 奏議ニモ、亦圖們江ノ舊址ヲ查勘スル、今、此碑、東ノ溝ハ、是レ
 松花江ノ上流ナル、東ハ、土門トス、ト、義ト符、其、轉テ、疑、貳ノ、說
 多シト云ヘリ、臣、以為ヘラ、ク、下流、松花江ニ入ルト、是レ、而カモ、標限ノ
 碑、堆ハ、既ニ、彼カ、如ク、土門ノ形便ハ、又、此ノ如ク、向カニ、呈、滿上流ニ
 接セ、カレバ、我國ノ人、只、認メテ、土門ヲ、以テ、界ヲ、定メ、ン、ノ、之、初メ
 ヲ、一、毫ノ、欺、隱、モ、ナシ、故ニ、甚、口、カ、辨、セ、ル、モ、而カモ、彼ハ、專ラ、圖們
 江ノ、正源ヲ、以テ、界ヲ、定メ、ント、欲シ、臣ハ、推テ、研、堆ノ、界ヲ、以テ、證
 ト、為シ、兩ツ、ナカ、ク、相、葛、藤、レ、彼、此、矛盾、又、故ニ、另ニ、繪、本ヲ、成シ、
 歸リ、テ、朝廷ノ、意ニ、報セ、ル、ト、十、餘、日、高、議、シ、始メ、テ、艸、本ヲ、成シ、
 會、公、閱、シ、然レ、後ニ、更ニ、正、本ヲ、寫、セ、リ、云々
 又云ク
 紅湍水ノ形便ハ、西邊鴨係江ノ支流ヲ、距ルコト、相距ル、七十五
 里トシ、立碑處ト、南北、距ルコト、一百三十里トシ、西豆水、正流ハ、吉

十一十三 (紅湍水)

MT

14133

10418

MT

14133

10417

林ノ地ニ至リテ^{其の地}立碑處ト相離ルニト四五百里ト云ハ碑文ノ
 東ハ土門ト云トイヘルトハ初ノヨリ相離ルルヲトモ處々指證シ一々
 辨論スルバ以テ其疑ヲ解破スルニ是ハ中國ノ水負ノ文碑界ノ江
 源ガ中國ノ圖誌ト合セカニ以テ終ニ疑ヲ釋カテ數朝相持シ
 テ終本ハ互ニ相鈴印シテ會ヲ行ク乃チ十一月三十日ニ於テ
 會寧府ヲ還歸セリ
 後十三二年 韓皇ノ去武元ニ年^{文德二十二年}秋 咸鏡北道觀客
 使趙存高ニ形勢ヲ探察シテ文蹟ニ考據シ圖本ヲ精繕シテ附
 ニ談辨五條ヲ以テセリ
 一白頭山分水嶺ノ形便
 分水嶺碑西ニ巨壑アリ西ハ白山ヲ挟ミ東ハ分水嶺ヲ挟ミ即
 チ鴨綠江發源ノ處ナリ碑東ニ溫浦アリ南ハ大角峯ヲ挟ミ
 北碑後ノ山ヲ挟ミ兩岸ノ土壁門様ノ如キコト數十里故ニ
 土門ト曰フナリ碑東ヨリ石堆數十里トシ土堆五十里トス唯止
 ニル處水出ツ即チ松浦ナリ松浦ヨリ北靄山ニ至ル西邊ノ陵口
 黃口大小沙墟九等墟各洞ノ水合流スルコト三百餘里兩々
 溝ニ至リテ松花江ニ入ル
 二北靄山下畔嶺ノ分界江長引江ニ元口江ノ形便
 分水嶺ヨリ東ニ松花江ニ合流スルコト三百餘里北靄山ト爲ル
 靄山ノ南ニ水アリ名ケテ元口江ト曰フ正南流スルコト二百餘里
 茂山三下ニ至リテ長引江ニ入ル靄山ノ東ニ又一池水アリ名ケテ
 長引江ト曰フ蓋シ分水嶺ノ土門江ハ東流スルコト三百餘里
 靄山ヲ過キテ松花江ニ入ル土門以東靄山以南秋地タルコ
 ト的確疑ナシ而ルヲ况ンヤ靄山以東ノ水ハ西北向ノ水ト東
 流シテ長引江ニ入リ而シテ源流ハ只下畔嶺ヲ隔タルコト八字標
 ノ如キニヤ

七十三 精製屋製

MT

14133

10420

MT

14133

10419

三、豆満江ノ形便

源、長山嶺池ニ出ヅ分水嶺ノ主碑處ト相離ルヲト九十里ナリ
四、居民ノ情形

茂山ヨリ遠ク地ニコト長ク或ハ百餘里、数十里、廣ク或ハ
三十里五六十里、東北界ニ徳城ノ界ニ至ル、六百里ノ地、韓民
ノ移入ル者已ニ數萬ニハ過ク皆清人ニ墾闢セシム清人ハ韓
人ノ百分ノ一ニ滿タス

五、兩江勅界辨説

略ニ曰ク此地間曠ルニテ數百餘年、兩國互ニ相禁止ス清人ハ
差ヲ殺シカヲ焚キ馳リテ以テ我人ヲ刺還シ或ハ入ル者アル
ハ清人律ニ依リテ島首セシガ壬午韓皇親年ヨリ以後ハ禁
止スルコト能ハスト云フ

光武二年秋、鐘城ノ民吳三甲等、定界碑ノ地未ダ勘セザル

コトヲ以テ上言セシニ韓皇ハ批旨ニテ政府ヲシテ稟處セシムベト
イヘリ明年春吳三甲等、又中訴セシニ内部大臣李乾夏ハ訓
ヲ成北觀察使李鍾觀、發慶源郡守朴逸憲ヲ以テ查界派
員ト定メ本府ノ主事金應龍ト偕ニ往テ審勘シ四月十六日
ニ起程シ先ヅ分界江源ヲ審シ立碑處ニ至リテ歸リ五月十五日
觀察府ニ回報セリ其略ニ曰ク

碑ノ東西分水ノ溝壑穴カシ八字標ノ如シ碑堆ノ豆満江源ヲ
去ルコト恰カモ九十餘里ノ遠キアリテ初メヨリ土門ノ發源ニ據
セザルハ豆満江ヲ捨レテ土門ト爲ス者ニ當テ説テ得ル者ナリ
碑址ヨリ東溝ニ從テ下レバ往々石堆延キテ二十里許リノ大
角峰ニ至リ此ヨリ土堆ヲ築クコト遠東七十里ニ至リ合セテ
一百八十餘アリ堆上ノ木已ニ枯シ中間ニ土壁アリ門様ノ如キ
コト數十里許リ土門ノ名ハ此ヲ以テス土門ノ源ハ杉浦ニ至リ

ナハ十三 (精製複製)

MT

14133

10422

MT

14133

10421

于水始ノテ出テ通シテ北觀山ノ西隘口、黃只、大小沙墟、九等墟、
 兩々溝等ノ處ニ至リ流ルニト五六石室ニシテ松花江ト合シ東
 里龍江ニ至リテ海ニ入ル土門ノ上源アリ下流海ニ入ルニ至ル以東
 國界是レ界限内ノ地ナルニ我國ハ初メ邊界事ヲ慮リ嚴シ流
 氏ヲ禁ジ逐ニ其地ヲ盡シウカ故ニ清國ハ之ヲシガ鑑ト謂
 ナ之ツ占墾ヲ爲シ俄人ニ千餘里ノ地ヲ割讓スルアルニ至ル
 之ヲ昔年ノ定界土門ノ限ニ視ヒ是、如クナルベカラズ而シテ
 原定ノ界限ニ尙未タ妥協スル氏生之ヲ以テ困リ受テ邊界
 徒テ又煩ヲ滋ヤリ此ノ兩回定約ノ日ニ邊界各々委員ヲ派
 シ會同査勘シ彼此各回通行ノ例ヲ援照シ公平ニ妥協
 共界限自ラ分明タルニ云々左ニ六條ヲ開ス
 一ニ曰ク白頭山分水嶺土門江ノ形便 前ト略同シキ故ニ異ス
 二ニ曰ク豆滿江土門江ニ水ノ辨

MT

14133

10423

略ニ曰ク關北誌ニ云ク古人ハ重中鐘成以上ヲ謂フ於伊
 後江ト稱シ以下ハ之ヲ豆滿江ト謂フ茂山會寧、鐘成
 三色ノ江ハ實ニ魚潤江リ而シテ即チ於伊後ノ變稱ニ
 シテ初ノリ豆滿ノ名ナシ安シク土門ノ轉音ニ云フコトヲ
 得ニヤ此ニヤ分水嶺發源ノ土門ト稱ルコトナキヲヤ
 三ニ曰ク分界江ハ土門ノ下流ニ非ザルノ辨
 略ニ曰ク下畔嶺ノ發源ノ水或ハ博爾哈通河ト稱シ或
 分界江ト稱ス乃チ古人カ此ヲ指シテ土門ノ下流トシ而シテ
 浪リニ分界ノ名ヲ得免ナカシヤ 詳ニ云ク分界江ハ原ノ下畔嶺
 三百餘里ノ大心ナリ至リ 舊城ノ三隅ニ入ル
 四ニ曰ク關北誌ノ事蹟、五ニ曰ク古史ノ傳説、六ニ曰ク邊
 界ノ事情 畧ス

MT

14133

10424

同月廿五日觀察使之ヲ以テ内務大臣ニ報セリ

十九十三 括弧内製

光緒三十八年六月、間嶋ノ民呂術變等官ヲ設ケテ
 我民ヲ保護セシメトシテ請ヒシニヨリ内部ヲ視察李範允ヲ
 派シテ朝臣保護セシメタルニ八月李範允ハ去月廿三日ヨリ
 渡リテ告アリ傳佈シタルニ民皆感位長服セリ但シ法官ノ強
 迫ラズケテ難敷シ服ヲ易ヘシラセタルニヨリ民情違却セルコト
 ヲ内部ニ電報シ又鍾敏對岸ノ撫慰局ノ清官甚多峯嶋
 民ヲ驅逐セントシテ館兵ヲ四縱シ我民ヲ傳囚シ杖打火烙シ鉄
 賊ヲ勒索シ悪刑ニ堪ヘズニテ死境ニ至レルヨリ男女漢教シ日ヲ
 逐テ泣訴シ穀田蹂躪セラルテ牧場ト巻ルコト、七月十三日清
 四ノ匪徒數百、峯山ノ間嶋ニ突入シテ三人ヲ銃殺シ學童十
 三人ヲ捉ハ去リ訓長ニ銀兩銃彈火藥等ヲ勒索シ民方々
 ニ居歎セラルレ禍朝夕ニ迫レルコト等ヲ報告シ明年五月又
 報ジテ曰ク

10425

蓋シ我民嶋ニ入りテ墾荒セルコトハ戊辰ヲ始メリ而今
 三十六年ナリ去ル庚寅ノ歲、清官葉祥甲ハ吉林ヨリ
 来リ兵ヲ從ケ棒ヲ荷シ勅シテ難敷セシメントス我民驚
 駭隠伏シテ執ヘラレ勒難セラル民高數百アリ或ハ内地ニ
 還リ或ハ俄界ニ逃シタリ今又清官張兆祺来リテ華
 龍谷鍾敏對岸ノ清館ニ至リテ郷約甲長ヲ差出スト稱
 シ所由ノ韓民ヲ誘招シテ押囚勒難シ難貫御約錢ハ
 名ヲ以テ五十兩、甲長三十兩ヲ徴シ威脅勒棒セリ諸民
 ハ馬頭ニ哭訴シ情状愁慘ナリ又兵ヲ圍里、縱ケテ強テ居
 ヲ録シテ去ルト云フ

14133

李範允ハ又嶋民韓賊、權全、陽汶、金秉奎等ノ告ヲ接
 シテトテ芝院一ハ清負趙宗翰ガ韓民ヲ利虐シ兵ヲ從ケ
 テ賦ヲ奪ヒ現ニ傳囚セラル者三十餘人アルコト趙宗翰ガ韓民

MT

廿十三 粘膠製

韓清條約第十款中、兩國陸路交界處所、邊民之向
 來通商者、其次應、定約後、於陸路通商章程稅
 則之重訂及邊民之越境、往來者、其安業、聽
 生命財產之保護、等ノ旨、外邦より清國公使ト
 商辦、後該地方附近官署、文移、テテ勤難ヲ行フ
 ナカラシムベシ、疆界ニ至リテ、定界碑以下、土門、江、以、南、ヲ、我
 國、界、限、ト、確、定、シ、官、署、設、ケ、稅、ヲ、定、ム、ハ、レ、但、テ、數、百、年、以、來、
 曠、地、遠、隔、ニ、安、定、セ、ト、ハ、張、大、ニ、涉、ル、ニ、似、タ、レ、バ、姑、ク、先
 ツ、保、護、官、ヲ、特、置、シ、テ、管、理、シ、名、稱、ヲ、以、テ、該、地、ニ、駐、劄、
 シ、專、ラ、事、務、ヲ、管、理、シ、生、命、財、產、ヲ、保、護、シ、朝、家、豫、保、ノ
 意、ヲ、示、サ、ル、ベ、カ、ク、云、フ、
 地方向長代辦高用鼎、此報告、據、リ、テ、意見書、ヲ、政府、
 呈、シ、テ、曰、ク、
 韓清條約第十款中、兩國陸路交界處所、邊民之向
 來通商者、其次應、定約後、於陸路通商章程稅
 則之重訂及邊民之越境、往來者、其安業、聽
 生命財產之保護、等ノ旨、外邦より清國公使ト
 商辦、後該地方附近官署、文移、テテ勤難ヲ行フ
 ナカラシムベシ、疆界ニ至リテ、定界碑以下、土門、江、以、南、ヲ、我
 國、界、限、ト、確、定、シ、官、署、設、ケ、稅、ヲ、定、ム、ハ、レ、但、テ、數、百、年、以、來、
 曠、地、遠、隔、ニ、安、定、セ、ト、ハ、張、大、ニ、涉、ル、ニ、似、タ、レ、バ、姑、ク、先
 ツ、保、護、官、ヲ、特、置、シ、テ、管、理、シ、名、稱、ヲ、以、テ、該、地、ニ、駐、劄、
 シ、專、ラ、事、務、ヲ、管、理、シ、生、命、財、產、ヲ、保、護、シ、朝、家、豫、保、ノ
 意、ヲ、示、サ、ル、ベ、カ、ク、云、フ、
 地方向長代辦高用鼎、此報告、據、リ、テ、意見書、ヲ、政府、
 呈、シ、テ、曰、ク、

MT 14133

10428

MT 14133

10427

廿一十三 (括弧内製)

廿年八月議政府參政全奎弘が上奏略曰ク

北鄒島に即チ國界ノ交界ニシテ空曠タルコト今數百年

コニ數十年ヨリ以來北道沿邊各郡我民ノ該地ニ

移住シ耕食居生る者今數萬戸十餘萬生靈アリ

而シテ酷ダシク清人ノ侵漁セラルル水嶺ノ定界碑以下

土門江以南ノ區域ハ固ヨリ我國ノ界限ト確定シテ後

執リ稅ヲ定ムベキモ數百年空曠ノ地邊甬安定セシトハ

張大ニ海ニ心ヲバ始ラシク先ア保護官ヲ特置セシムベキト

仍テ觀察李範允ヲシテ特差管理トシ該地ニ駐劄シテ事

務ヲ專管セシメ外邦ヨリハ此意ヲ以テ清國公使許台身ニ

知照セタルニ清公使ハ復照シテ韓民我國邊地ニ越竄ス

ルガ故ニ従前屢々貴部ニ刷還リ請求セシトアリ又該地ハ

我國ノ土着人民韓民ニ信從セラルル向キニ我が地方官ヨリ

一切ヲ管理シ我が管轄地トシテ貴國ガ管理ヲ設置スルハ不

可ナリト韓國外部ハ又清公使ニ移照シテ峻辭之ヲ辯セリ

爾後ノ交渉ハ未ダ詳カキモ要スルニ境界問題ハカクノ如ク

シテ尙ホ未定ノマニ繼續セラルル

清國ハ咸豐十一年(西曆一八六一)ニ於テ露國ノ烏蘇里一帶

沿海ノ地ヲ割讓シタルガ此條約ニヨリ至滿江東岸ノ中ニ地ハ

全ク露領トナリシトス 従前韓國ノ領地タル至滿江口ノ

鹿屯ヲモ并セテ失フニ至レリ然レニ清國政府ハ此條約ノ成立

ニ關シ朝鮮政府ニ通知シタリヤ否ヤハ頗ル疑ハシキ者アリ通

文館志今上四年丁卯ノ頃ニ云フアリ

咸鏡道觀察使全有圓が馳啓セル據ルニ慶興府使尹

映呈補ス異様人十二名來リテ本府東門外ニ到リ一人ハ

本國ノ語言ヲ以テ唱言ス俄羅斯國ノ將サニ室ヲ界牌

本國ノ語言ヲ以テ唱言ス俄羅斯國ノ將サニ室ヲ界牌	映呈補ス異様人十二名來リテ本府東門外ニ到リ一人ハ	咸鏡道觀察使全有圓が馳啓セル據ルニ慶興府使尹	文館志今上四年丁卯ノ頃ニ云フアリ	ニ關シ朝鮮政府ニ通知シタリヤ否ヤハ頗ル疑ハシキ者アリ通	鹿屯ヲモ并セテ失フニ至レリ然レニ清國政府ハ此條約ノ成立	全ク露領トナリシトス 従前韓國ノ領地タル至滿江口ノ	沿海ノ地ヲ割讓シタルガ此條約ニヨリ至滿江東岸ノ中ニ地ハ	清國ハ咸豐十一年(西曆一八六一)ニ於テ露國ノ烏蘇里一帶	シテ尙ホ未定ノマニ繼續セラルル	爾後ノ交渉ハ未ダ詳カキモ要スルニ境界問題ハカクノ如ク	可ナリト韓國外部ハ又清公使ニ移照シテ峻辭之ヲ辯セリ	一切ヲ管理シ我が管轄地トシテ貴國ガ管理ヲ設置スルハ不	我國ノ土着人民韓民ニ信從セラルル向キニ我が地方官ヨリ	ルガ故ニ従前屢々貴部ニ刷還リ請求セシトアリ又該地ハ	仍テ觀察李範允ヲシテ特差管理トシ該地ニ駐劄シテ事	務ヲ專管セシメ外邦ヨリハ此意ヲ以テ清國公使許台身ニ	張大ニ海ニ心ヲバ始ラシク先ア保護官ヲ特置セシムベキト	執リ稅ヲ定ムベキモ數百年空曠ノ地邊甬安定セシトハ	土門江以南ノ區域ハ固ヨリ我國ノ界限ト確定シテ後	而シテ酷ダシク清人ノ侵漁セラルル水嶺ノ定界碑以下	移住シ耕食居生る者今數萬戸十餘萬生靈アリ	コニ數十年ヨリ以來北道沿邊各郡我民ノ該地ニ	北鄒島に即チ國界ノ交界ニシテ空曠タルコト今數百年	廿年八月議政府參政全奎弘が上奏略曰ク
-------------------------	--------------------------	------------------------	------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	-----------------	----------------------------	---------------------------	----------------------------	----------------------------	---------------------------	--------------------------	---------------------------	----------------------------	--------------------------	-------------------------	--------------------------	----------------------	-----------------------	--------------------------	--------------------

次二十三 粘梗屋製

MT 14133

10430

MT 14133

10429

キ一屬ニ集カントス貴國ノ驚疑セシコトヲ恐レ我々都統ノ書ヲ
 奉ヒテ定メ奉リテ通知スト云々トアリ因リテ小邦ノ北地ハ
 上四ノ邊境トハフ書シテ界ト爲シ幾百年間境場虞
 ナカリキ意ハサリキ五六年來忽々何許カノ異様人アリ
 来リテ慶典有ノ江ノ隅ヲ相望ルノ地ニ據リテ或ハ
 界牌ヲ立テ或ハ傳書ヲ請ヒテ而シテ書中ノ辭意ニ
 就テ始メテ俄羅斯人ノコトヲ知ル今復江ニ沿ヒテ全ク
 結ビ儼トシテ飛鳥ヲ成セリ恐ラクハ争桑ノ漸ヲ啓カ
 ントノ緣由ヲ以テ清國禮部ニ咨報セリ
 是レ露情條約ノ後六年ノ事ナリ之ニ關シテ禮部ノ回答
 ハ通文館志ニ見エザレバ恐ラクハ何等ノ回答ナカリトナラン

MT

14133

10431

廿三十三 桔梗屋製

東國輿地勝覽云々

三、豆満江沿岸地理人記載

附松花、鴨綠
兩江源

豆満江ハ慶陽府ノ東二十五里ニ在リ源白頭山ニ出ツ東良
北斜地阿木河、童中、多温、速障等ノ處ヲ歴テ會比家
ニ至リ南流シテ慶興府ノ沙次麻島ニ至リ分派スルコト五里
許リシテ海ニ入ル女真語ニ萬ヲ謂テ豆満ト爲ス衆水此
ニ至リテ合流スルヲ以テ故ニ之ヲ名ク

同書ニヨレバ東良ハ會寧ノ豆満江外野人地面、上東良、中東
良、下東良アリ阿木河ハ幹木河、吾音會ニ同シ即チ會寧
ナリ童中ハ鍾城府北二十七里ニ在リ多温ハ今ノ穩城ナリト云
ク沙次麻島ハ唐屯ノ原名ナリ

豆満江ニ會合スル河流ハ輿地勝覽ニ慶陽府條下ニ於テ會
比家川、吾弄草川、林成洞川ヲ載セ其江外地ニ於テ訓春

江河春ヲ載ス鍾城府條下ニ潼關小川、西豊川、吾龍の水
ヲ載ス吾龍の水ハ吾弄草川ト因一流ナルベシ會寧府條下

ニハ乙下川、豊山川ヲ載ス豊山川ハ下流幹木河ト爲シ其外會
寧、穩城ニ府ノ條下ニ魚厚江ヲ載スレドモ其ノ源委ヲ記セズ

因リテ攷フルニ豆満江ハ慶陽附近ニ至リテ衆水ヲ合スルガ爲シ
名ヲ得タルコトハ輿地勝覽ノ記スル所、關北誌清韓境界交涉ノ編
中林邊憲、報告ニ引ケリハ

か童中以上ニ豆満ノ名ナキノ説ト合スルニ似タリ但シ輿地勝覽ハ
云フ魚厚江ハ咸北觀察使趙存禹ノ談辨ニハハユル元口江ニ
バクシテ又關北誌ノ於テ伊後江ト同ジカルベシハ現今認ラズニ豆満

江本流ノ上流ヲ移俾後江トスルハ未ダ妥當ナリト云ハカズ然レドモ
韓人が久シキ以前ヨリ於伊後江ヲ以テ豆満江ノ上流ナリトスルノ
説アルコトハ適々現今ノ本流ヲ固執シテ豆満江境界ヲ斷カズ
カラスル一ノ證例トナスコトヲ得ベキニ似タリ但シ魚厚江元口江

十三 複製屋製

MT

14133

10433

MT

14133

10432

於伊後江に合ノ河、流ニ當ルヤヤハ未ダ考フルヲ得不音ヲ以テ推セ
バ噶哈哩河、即チ噶雅河ト稱ヤ近キヲ覺ユルニ
水道提綱ニ云ク

土門江ハ源長白山頂ノ東麓ニ出ツ土門色禽ト曰フ

義ニシテ豆滿ト譯音ノ異
タルニ色禽ハ滿洲語源義ナリ東流シテ隱ル、ガ若ク見ハル、ガ石キニト

数十里折レテ東北流スルコト又数十里一水アリ西北ヨリ一水ハ

二派ヲ合シテ南ヨリ来リ益ニ合ニ合ニ合ニ長白ノ支峯ナリ

東南流スルコト百餘里一水アリ二派ヲ合シテ西南ヨリ来

リ會ス

提綱ノ記事ハ全ク康熙ノ時穆克登ノ探査ニ基キシモノ、若ク

土門ノ派ヲ長白ノ東麓トシ又其隱見不明ナルコトヲイハリ

之ヲ吉林通志圖們江ノ條ニ對照スルニ云ク圖們江ハ長白

山ノ南麓、分水嶺ノ東麓ニ出テ凡ソ二派、北ヲ下シ水ト曰ヒ

南ヲ石乙水ト曰フ東流シテ碧桃花甸ノ南ニ會シ合シテ東北ス

左岸ヲ朝鮮ノ界トス又東北シテ紅土山ニ迄ス紅土河北ヨリ来

リテ之ニ入ル紅土河ハ城ノ西南ノ山ニ出テ銘シテ圖池トナリ溢レテ

南流スルコト二十餘里圖們江ニ入ルトアリ水道提綱、土門色禽ハ

即チ此ノ紅土河ニシテ下シ水、石乙水ハ水道提綱ニ云ル一水アリ

二派ヲ合シテ西南ヨリ来リ會スル者ナリサレバ水道提綱ト吉林

通志トハ其ノ正源ノ認定、ホク因ビカクガレアリ意ヲ通志ハ

近年境界論争ノ開始セラル後ノ編纂者ニ係ルリ以テ意

ヲ用キテ之ヲ訂正シタルナリ韓人ハ又長山嶺地ニ出ヅル者ヲ

以テ正源トス其ノ紅土河ヲ指せんカ長山嶺河ヲ指せんカハ分明

ナラズ加フルニ水道提綱ハ紅土河南ヲ朝鮮國界トシ吉林通志

ハ其左岸即チ河北ヲ朝鮮國界トシ亦相歧互ヤリ界

解ノ所在ヲ以テ之ヲ證スルハ左岸ハ右岸ノ誤リナルガ若シ

十三 粘板屋製

MT

14133

10435

MT

14133

10434

REEL No. 1-0364

0126

水道提個ハ次ニ云ク

折レテ東北流スルコト百数十里、南岸小水ニ大水一ノ受
ク、唐臣ニ小水ニ皆龍山ヨリ以テ北流スルコト僅ク、百里許リ大水
ヲ洪丹河ト曰フ、龍山、西南大山ヨリ出テ、三池原ノ水ヲ合シテ東流スルコト
百数十里、折レテ東北流シ、東ノ小水ヲ合シ、又北龍山ノ東麓ヲ

吉林通志ニハ以下ニ云ク、南岸ニ受クル水ヲ記ヤク、而シテ提個
ニ載セザル、北岸ノ三水、即チ長山嶺河、西北ヨリ大箕溝

河、西北ヨリ外七道溝、北ヨリ入ルコトヲ載セタリ、此ノ長山
嶺河ハ趙存高ノ該輯ニクハ、長山嶺地ニ出ヅル豆滿江

正源ナリヤ否ヤハ疑ハシ、提個ノ洪丹河ハ通志ノ圖及シ
疆域ノ部ニハ、紅丹水ニ作リ、韓回島界負ノ馳啓文

中ニハ紅傷水ニ作ル者見レタリ、
提個ハ又次ニ云ク、
稍ヤ東スレバ阿几个土門アリ、西北ヨリ一水ヲ合シテ東

南流シ来リ、属住阿几个色倉ハ長白嶺ノ東百里ノ大山ニ在リ
其西ハ即チ泥牙河ト云フ、色倉ハ即チ泥牙河ト云フ、西北流シテ
物表江ト爲ル者ナリ、其河ハ山ヨリ東流スルコト百数十里、一水アリ、二隔ヲ
合シテ西北ヨリ来リ、合シテ折レテ東南流スルコト百里シテ土門ニ入ル、又別源ナリ、

阿几个ハ滿洲語ニシテ小ノ義ナリ、即チ小土門水ノ意ナシモ吉
林通志ニ而得小圖們河ト云フ、因シカニ、吉林通志ニハ、此河ヲ

稱シテ紅溪河ト云フ、紅溪河ハ大赫穆塔山ニ出テ、東流シ
テ南シテ北ニ小水一ヲ受テ、又南流シテ西ニ小水ニヲ受テ、又南

シ外馬ニ渡リ、溝河一、小水ヲ合シ、西ヨリ来リ、テ之ニ入ル、原住河ハ
出ツ、松花江ハルノ義、馬辰溝河ト云フ、其カニ、在リ、隔ツ、其處ヨリ東流スルコト五
十餘里、北ヨリ来ル一、小水ヲ受テ、又東スルコト四十里、シテ紅溪河ニ入ル、

折レテ東南シテ北ニ小水ヲ受テ、又南シテ石人溝河、西ヨリ入ル
又東シテ紅溪河、嶺ヲ逕シテ北ヨリ来ル一、小水ヲ受テ、合シテ

南シテ圖們江ニ入ルト、通志ノ記スル所ナリ、裏馬辰溝河ハ
圖ニヨシ、娘々庫河、別ニ厄雅穆尼ニ合シテ、松花江ニ入リ、娘々庫
ハ即チ泥牙河、泥牙庫ナリ、推セバ、提個ト通志トハ、阿几个土門

十三 粘糠屋製

MT 14133

10437

MT 14133

10436

即チ紅溪河ト娘々庫ト正原支源ヲ互ニ顛倒セルニシテ其ノ
相一致スル所アルヲ見ルニハ朴逸憲ノ報告ニ兩々溝トアルハ譯者
ノ誤アルルニシテ亦コノ泥牙母泥牙庫ナルガ若シ

提綱ニ又改ニ云フ
又東北五百里ニシテ南岸ニ水ニテ受ク東注一ク魚順河ト曰フ
南注一ク西豆水ト曰フ

漁順河ハ開北流ニシテ魚順江ト異稱因水ナルベシト吉林
通志ノ地圖ヲ以テ之ヲ推セバ西豆水ニ相當ス通志疆域

ノ部ニモ西豆水ノ名アリ西豆水ニシテ果シテ魚順河ト昂ク
魚順江ナリトスレバ韓人ノ古時ニ於テ西豆水ヲ豆滿ノ正原

トシタル者ノゴトク三碑慶ト四五百里ヲ隔ツルヲ以テ康陞
定界ノ際ニ穆友登ガ爾ガ國地ヲ得ルコト頗ル慶シトイヒ

モ理ナキニアラザルナリ
提綱ニ又改ニ云フ

大山ノ東麓ニ至リ折レテ北流シ東ヲ來ルニ水ニ受ク其
東岸ニ朝鮮ノ名山城ナリ

吉林通志地圖ニミレバ此ニ水ノ一ハ朴河トアリ韓人ノ傳
ハ此河トアリ

明カララガ
提綱ニ又改ニ云フ

折レテ西北ニ西ヲ來ルニ水ヲ受ク其東岸ニ朝鮮ノ
良雍城ナリ

良雍ニ朝鮮人ノ古ノ完梁水ニシテ輿地勝覽ニ梁水萬洞
堡トアルハ或ハコレナリ也吉林通志ノ記事及ヒ地圖ニハ紅溪

河以東ニ梁水以西ニ於テ北ヲ來リ注グ水ニ外六道溝河
枇杷溝河ノ外五道溝河ノ石洞河ノ外四道溝河ノ五ノレトモ

十三 粘糠屋製

MT 14133

10439

MT 14133

10438

提綱又改ニ云ク

又折レテ東北ニ平地中ヲ流ルニト散テ百里南ヨリ来
水三リ受テ其ノ東南岸ニ即テ朝舞ノ方山堡及心
會寧、高岭、王坦、鐘城、潼關、雍大、七改ニテ皆江
ニ流ス

方山ノ今ノ朝舞ノ豊山ニシテ粵地勝覽ニ載テ多ク豊山川
が江過テ豊山ノ古堡ト因ジカラス高岭ニ高嶺ナリ王坦蓋
レ防垣ノ訛リ雍大ニ永遠ノ訛リナルヤシ去林通志地圖ニ
豊山川ノ外ニ七道ノ水流ヲ載セ粵地勝覽ニ豊山川ノ外
ニ會寧、府ノ堡下、ハニ下川、鐘城府ノ堡下、潼關、川、
西豊川ヲ載テ多クイコト提綱ト符合ス但シ地圖ニ豊山會
寧ノ間ニ南ニ地アリハニ下川ノ名ニ下出處ヲ因テウズルニ
テ方カルカ去林通志ニ此間ニ折リ提綱ニ載テ左岸ニ交ル

水流六道ヲ載テ曰ク金河、渭河、曰ク松栢、背河、曰ク遠、寧、寧、海河、
曰ク石門、渭河、曰ク馬平、夜河、曰ク以、建、坪、河、大、死、夫、山、河、今
流ス者見テリ遠、寧、寧、海河、水源、和、龍、塔、ナリ和龍塔、清國
通高徳与ニシテ馬平、夜河、水、源、走、齊、塔、清、國、通、高
分、リ、アリ

提綱又改ニ云ク

小水アリ西北流シテ入其北岸、大山南麓、至先喝茶里河
アリ北ノ方無安嶺ノ西南麓ヨリ西南流シ諸水ヲ合シ折レテ
東南ニ西来ト思哈兒河ヲ合シテ東南ニ来リ今會寧、府、巨
川ナリ昔南、對、岸、ノ、即、テ、朝、舞、ノ、德、城、ナリ馬、佳、湖、茶、里、河、無、安、
嶺、北、岸、ニ、在、リ、今、北、東、南、三、水、ヲ、合、テ、西、南、流、シ、十、里、ニ、シ、テ、
今、之、西、南、流、シ、十、里、北、東、南、三、水、ヲ、合、テ、西、南、流、シ、十、里、ニ、シ、テ、
ノ、大、山、ヨリ、數、里、ヲ、合、シ、テ、東、南、流、シ、十、里、ニ、シ、テ、折、レ、テ、東、南、流、シ、西、南、流、シ、
来、リ、又、北、東、南、三、水、ヲ、合、シ、テ、東、南、流、シ、十、里、ニ、シ、テ、折、レ、テ、東、南、流、シ、
東、南、流、シ、東、南、流、シ、東、南、流、シ、東、南、流、シ、東、南、流、シ、東、南、流、シ、
今、之、水、源、ヲ、北、東、南、三、水、ヲ、合、シ、テ、東、南、流、シ、十、里、ニ、シ、テ、折、レ、テ、東、南、流、シ、

十三 括弧屋敷

MT

14133

10441

MT

14133

10440

佈爾哈通河、二布爾哈通河、トウ、海、敦化縣、東、哈
 爾濱、嶺、出、東南、流、東、頭、通、溝、北、頭、通、溝、二、通
 溝、北、二、通、溝、四、河、り、受、又、東南、東、通、溝、河、り、受
 又、東南、鐵、盤、嶺、り、受、東、二、根、木、道、河、り、受、又、東南
 青、龍、山、り、受、北、二、廟、兒、溝、河、り、受、又、東、流、東、二、廟
 溝、河、り、受、又、東南、五、峯、山、り、受、南、二、柳、樹、河、り、受
 又、東南、天、寶、山、北、り、受、礦、務、局、り、受、又、東南、死
 砬、山、り、受、胡、山、河、り、受、二、住、が、又、東南、倫
 驗、砬、子、り、受、西、二、錫、林、河、り、受、又、東南、煙、筒
 砬、子、北、り、受、北、平、溝、河、り、受、北、り、受、二、住、が、又、東、延
 吉、河、北、り、受、二、住、が、又、東、慶、園、山、南、り、受、海、蘭
 河、西、南、り、受、十、水、り、受、二、住、が、
 海、蘭、河、瑯、春、西、二、百、八、十、里、牛、心、山、出、三、源、り、受
 二、東北、流、東、二、三、道、溝、河、り、受、又、東北、北、二、道、溝
 河、り、受、又、東南、北、二、頭、道、溝、河、り、受、又、東、二、折、レ、
 南、二、南、二、道、溝、河、り、受、又、東、二、嶺、南、南、二、道
 二、南、二、五、道、溝、河、り、受、又、東、二、馬、鞍、山、南、り、受、二、道、溝
 河、二、七、道、溝、河、り、受、大、砬、山、河、り、受、南、り、受、
 二、住、が、又、東北、南、二、坡、基、溝、河、り、受、又、東北、南、二、八
 道、河、り、受、又、東北、佈、爾、哈、通、河、り、受、
 佈、爾、哈、通、河、既、海、蘭、河、り、受、合、レ、北、流、北、二、依、蘭
 溝、河、り、受、又、東北、北、二、華、子、溝、河、り、受、二、住、が、東
 南、二、三、道、溝、雅、河、り、受、
 十三、道、溝、雅、河、又、南、二、圖、們、江、り、受、
 看、未、レ、三、道、大、河、二、合、流、水、一、二、符、合、名、目、ナ、ク、二、住、が、薩
 奇、庫、河、り、受、其、東、西、方、向、二、相、歧、互、レ、且、ツ、通、志、載、ス、
 十三、結、核、屋、製、

MT

14133

10445

MT

14133

10444

所、吉林ニ於ケル他ノ地方ノ水道地志ヲ精テ滿洲誌ニ出ツル者多
 キト似テ此ニ水流域ニ十九ノ漢名ナリ在テ地志ノ異同ニ就カ
 レバ爾ト雖モ而カモ世ノ如ク甚シク多ク見テ前ナリ意
 フニ乾隆ノ中ニトシテ爾後ニ有テ爾前ニ三水ノ流域ニ無人
 曠野ニシテ地理ノ探査ニ極メテ不完全ニ提綱遺存地
 名ニ定テ記セシテ其ノ處ニ移テ能ハレシニテナリシナルベシ欽
 定盛京通志ノ著キニモ此ノ地方ニ合テ驛站ノ記載ナリ夫
 林外記ガ僅カニ噶哈里諾岸地方ニ卡倫ノ名目ヲ載セリ
 推テ見ト噶哈兒、海蘭二ノ流域以西ガ統治以外ニ放棄セリ
 レタルノ實ニ推測シ得ズナリ 提綱ト噶哈兒ニ通志ノ有
 爾哈圖ニシテ阿母ハハ滿洲語ト大義ナリ韓人ハ有爾哈圖
 何ヲ稱シテ分界江トイフ其ノ源トシテ下畔嶺ニ通志ノ有
 且嶺ト譯者ノ異ナルト同地ナルト提綱ノ注澤山ニ之ニ因ビキ
 ニ似タリ
 提綱ニ又改ニ云フ
 土門江ニ折レテ東流スルト有餘里、北より東ハハ水ニ合シ
原注ニハ名ヲハハ呼蘭
河ト曰フニ米賸河ト云 其ノ南岸ハ朝鮮ノ美談鎮城ナリ
 通志ニ北東ノ水派五道ヲ載セリ、即チ大通河、海味泉
 河、乾河、太平溝河、密賸河ニシテ密賸ハ又密トモ作リ
 提綱ノ米賸河是レナリ美談ノ名モ同シキ地名ヲ出テ其ノ地
 圖ニ其間ニ南岸ニ受ルル水一ヲ載ス
 提綱ニ又改ニ云フ
 折レテ東南流スルト數十里、又東英額河アリ其ノ之
 注ガ其西岸ハ即チ朝鮮ノ楮鏡城、南ノ慶源府城ト云
 通志ニ南ニ受ルル二河、即チ英河、陰陽河ヲ載ス陰陽
 河ガ英額河ナリヤ否ヤ未ダ斷定ス能ハズ楮鏡ハ訓我ノ記

十三 粘棟屋製

MT

14133

10447

MT

14133

10446

秀ナリ

提個ニ又改ニ云フ

又東南、輝春村ノ西南リ信、又東南、輝春河カリ東北ヨリ
十敷水ヲ合シ西南流シテ来リ合ス 車江輝春河ノ東北ヨリ
山甲ノ西流シ北来リ信
非矣合利河、西来リ夫谷迄輝春河ヲ合シ折レテ西南流スルコト信里東
南来リ西白河、北来リ心難拉庫河ヲ合シ又折レテ西南流スルコト信里東
来リ、必南達山水及心難南来リ、一河南来リ皮音河、信牙河、ト朱里河
ヲ合シ又折レテ西北シ北来リ必達河、勤成河ヲ合シ又西南折テ里、東来リ
必達河ヲ合シ又
西南、土門はハハ

輝春、輝春ノ訛字ナリカ此河、關元通志ノ記述ニ於テ如
ク江ニ又南、西歩江ニ送シ輝春河東北ヨリ来リテ之ニ合シ
輝春城ノ東北通肯山ニ出ヅ三便ヲ合シ西南流シ東、香
房溝河、受テ又西南、東ニ一小水リ受テ又西南、土門子、
運下拓野分向コトニ在リ小園河北ヨリ来リテ入り傍溝
河、台島溝河、里陰背河、改牙ニ南ヨリ来リ入ルベシク西

大園河北ヨリ入ル 源江大園河ノ
北来リ信里東 又西南、北ニ六道溝河、
大六道溝河受テ、南ニ太平川、關枝溝、梨樹溝ノ三河、
又西南、水林河、四方頂山ニ河、北ニ五道溝河、大五道溝河
ヲ受テ又西杉枝溝、秀松溝河、榆樹河、四道溝河、小柳樹
大柳樹河ヲ受テ南ニ錫泊河、源江今信箱
西北溝河ヲ合シ 西關枝溝河、胡
盧河 源江信里東
北来リ信里東 溝河、外郎溝河、二道溝河ヲ合シ小水一リ合シ皆北ヨリ入ル
女シリ西シゆ金溝河、亮溝河、頸道河、北ヨリ入り大紅旗屯
河、南ヨリ入ル西シ文流リ分リテ南ニ出テ八大屯ヲ傍リテ
北シ復合シ北、駱駝河ヲ受テ又西ニ輝春城ノ東ヨリ過キ
テ南シ而シテ西シ車大人溝河、東北ヨリ来リテ入ル又西南、
小二道河、大六道河ヲ合シ東ヨリ之ニ入ル又西南ニ東ニ龍首
山河、板石溝河ヲ受テ女シク西シテ園河ニ入ルトコト、ニイテ

十三 桂接屋製

MT

14133

10449

MT

14133

10448

二十間あり其ノ東ノ一山ハ千代都古傳ナリ又東數十里、山ノ北ハ千代都大權大河ノ海ヨリナリ、河ノ海流ニ依リテ西岸ハ慶長城ヨリナリ、水ノ流ルル所ナリ、南大坂ニ至リ西大坂ニ至リ

索鳳城ハ本鳳城ノ訛ナルカ如シ吉林通志ニハ又東南、玉泉洞ニ迄折レテ北シ五標樹ニ迄復折レテ東南流シ雲其山ニ迄シ園兒河北ヨリ来リテ之ニ入リ園兒河ハ沙陀子北ニ出ツ西ヨリテ東ニ而レテ南ニ流リテ池ト為ル者ハ園兒河也、西ニ流シ西南流シ雲其山北麓ヨリ西ニテ園兒河ニ入リ江ニ又南シ字界牌ニ迄シ韓清表復南シ園兒河ニ入リ海ニ入ルトアリ提綱ニ言名一水ハ即テ園兒河ニ考ルコト載ス所、八池ハ龍飛御天歌ニハ之ニ穆祖ハ韓東ノ地ト云ル東北ノ水成リ心ヲ歸ス王業ノ興ルル所ト云ル韓東ハ慶興松葉浮ニ至馬江東流ニ存リ大野添ナリ奇峰峭嶺、中ノハ池アリテ相連ナリ五色ノ蓮花蓋ニ資ル第三池ハ金塘村ハ即テ穆祖ノ舊居ナリト云ル者ニテ安陵ハ舊ト其南ニ在リナリ

吉林通志ニ曰ク
琿春城ヨリ西南、園兒河ト横水カクハ林河ト傳ト匯流ス處ノ長字界牌ニ到ルニ三十里、園兒河ト西至水ト匯流ス處、礮字界牌ニ到ルニ三十六里、石乙及ハ紅丹ニ水ト匯流ス處、帶字界牌ニ到ルニ四里、長嶺浮橋南岸ノ小字界牌ニ到ルニ四里、石乙及ハ紅土ニ水ト匯流ス處、河字界牌ニ到ルニ五里、石乙水河原、園字界牌ニ至ルニ五里、黄花松甸子ノ頭、湯字界牌ニ到ルニ五里、黄花松甸子ノ頭、湯字界牌ニ到ルニ五里、小白山東麓ノ溝、

長白山東麓ノ溝、
湯字界牌ニ到ルニ五里、
黄花松甸子ノ頭、
湯字界牌ニ到ルニ五里、
小白山東麓ノ溝、
長白山東南ノ小白山頂

十三 吉林通志

MT 14133

10453

MT 14133

10452

華字界牌に到る六百里、以上界牌の圖は江南の俱に
 朝鮮の界、一十字の以て界標トシタルナリ
 此界標の極は分明ナルに其設置は光緒六年邊界論を
 起りし以後に在ルヲ以テコレは據テ舊界を定ムルナリ
 一十里、一十里の以て清國が故意に特圖の威脅シテ境界の定
 メントスル情偽を露出スル者ト謂フベシ
 道夫、知成レシ去林外記ニ云ク
 寧古塔より琿春に至ル能ク又旅順ナリト云フアリ
 一白二十里より薩奇庫ト曰ヒ八十里より湯子里ト曰ヒ四十
 里より哈爾濱ト曰ヒ八十里より穆克德蘇ト曰ヒ七十里より密山ト
 曰ヒ往來行旅自ら鐵程ヲ稟シ若クキ備ハ借ル
 國より此等ハ常設ノキ備ノミニシテ他ハ春設テ冬撤スル
 増設キ備スル者アリシニ其設備ハ
市南谷園
 白河邊に在リシ也、和龍塔、去朝通南越壘總
 設ケ石同構ニ也、分ナリ設テ天宮、破防、向リ設テ也
 是ハ光緒六年以後に備リ朝鮮ト論争ノ結果トシテ、
 二百里ニシテ韓人カ期望以前、清國ニ於テ何等保護以上ノ
 後、爲アリキリレナリ也、等、此方ニ於ケル地名カノ未字ガ
多ク、坪ノ字、社ノ字等リ用ナリトモ其命者ガ韓人ナ
リレトシテ、清國ニ於テ之ヲ龍谷トシテ追テ
韓人ガ指シテ土門江原ト云ヒ即チ定界碑東數十里アリ
發源スル松花江ノ一源ニ水道掘開、及ヒ去林通志、何ノ
何、去林通志、明クカサキ、按テ、松花江ハ兩大原ノ合流ヨ
リ成ル東源ハ阿几个免拉庫、去林通志、阿

MT 14133 10455

MT 14133 10454

母八免拉庫 通志安巴國拉庫 活因凡 通志古洞 富爾亮 通志富爾亮 色
 庫 通志三尼雅穆尼雅庫 活因凡 通志古洞 富爾亮 通志富爾亮 色
 朱冷 通志三尼雅 等ノ諸水 通志三尼雅 成リ 通志三尼雅 西原 通志三尼雅 松溪哩烏料 通志三尼雅
 湯河 通志三尼雅 雅吟 通志三尼雅 那爾 通志三尼雅 泥他吟 通志三尼雅
 庫 通志三尼雅 九等墟 通志三尼雅 活因凡 通志三尼雅 疑 通志三尼雅 大小沙墟 通志三尼雅
 只ノ黃口陵口等 通志三尼雅 相當 通志三尼雅 知ん能ハ
 鴨緑江ニ執丁ノ水道提備ハ白ク
 鴨緑江ニ長白山ノ南麓ニ出ヅ東國門ト云フ
 一嶺ヲ隔ツ亦分水嶺ト曰フ山嶺上ニ康熙中
 林朝舞トノ分界碑アリテ存ス 文曰ク云 水ニ兩原分導
 シ今派シテ南ニトニ百里許リ云々
 小白山ノ一水ヲ載セズ圖門ト云フ一嶺ヲ隔ツルノ文ヲ
 加ハタルハ明ラカニ境界論争ニ刺激モシテ改訂シ
 タルヲ知ルニ足ル

MT 14133 10457 MT 14133 10456

十三 結構屋

附記

地理ノ記載ニ於テ欽定盛京通志ヲ引用セザルニ其杜撰租國ニシテ據ト為スニ足ラザルカ爲メナリ勅撰ノ書ニシテ信據スルニ足ラザルハ亦當時清國ニ於テ地方度外視レタルヲ見ルベシ水道提綱記述ニ盛京翔鳳閣ニ藏ヤン滿洲文地圖ト密ニ相符合シ多少實地踏査ニ出デタルヲ證スベシ意ヲ是レ康熙乾隆ノ際ニシテ記述多ク實査ヨリ出デタリ

十三 桔梗屋製

MT

14133

10458

REEL No. 1-0364

0138

三 断案

韓國が分界碑ヲ以テ境界ノ論争ヲ交スル唯一ノ準據ト
 スルハ正當ニシテ且ツ有力ナリ今水嶺上ニ存スル石堆五堆ハ明
 ラカニ康熙定界ノ當時移文ニ於テ韓國ノ接伴使ハ成鏡監
 司景ニ移文シテ結果、設置カレタリ者ナリ其ノ現ニ松花
 江源ニ連接シテ豆満江源ニ連接セザルハ當時兩國ノ使臣
 共ニ認認スルニヨリ今兩國ノ合意ナクシテ之ヲ改メキ理由ナク
 シナリ但シ兩岸ノ土壁門様ノ若キモアムヲ以テ土門ハ名
 ノ由テ生ズ前トシ豆満ト土門トノ名稱ガ淵源ナシトイフハ
 強辯ニシテ取ルニ足ラス豆満土門、圖門トモ、滿洲語即チ
 女真語ノ^{ハルハ}ハルニ出テ^{ハルハ}ハルヲ被レル河水ハ^{ハルハ}ハル
 大小圖們河輝發河、源流ハ雜林土門河等、皆同一源ニ
 シテ門様ノ土壁ノ有無ハ關カザル豆満江ノ上流ニ豆満
 ノ名稱ナシトノ説モ薄弱ナリ輿地勝覽ニハ明ク豆満江ガ
 長白山ニ出ヅルコトヲ記シテ於伊後江ヲ其上流トスルノ説或
 ハ韓國ニ有利ナルコトアラシモ魚腥江説ハ寧ロ不利益トナリ
 モ知ルベカラズ且ツ康熙定界ノ際、韓民ガ茂山對岸ノ地ニ
 於テ山ヲ楮ニシテ^{ハルハ}ハルキテ金慶門等ガ辨認ヲ費スルハ諸
 國ニ口實ヲ与フルモノニシテ甚トキ不利益ヲ貽セリ然レドモ清
 國ノ改シテ拒否スル能ハザル事實ハカノ定界碑ト石土堆現
 存ナリ水道提綱ガ土門色禽ヲ記シテ隱々ガ若ク見ハルハ、
 若シトイフハ石土堆ガ連接スル數十里ノ溝壑ヲ楮スル者ナルコ
 ト明カナルハ公平ニ判断スルハ當時兩國ノ使臣ハ皆今ノ松花江
 源ハ杉浦費源ノ水ヲ以テ茂山ニ流レ来レル豆満江源ト認認
 見ナリ誤認ナリ度クハ不利益ハ兩國均一ナラザルベカラズ
 サレバ地理上ノ觀察ヨリシテ韓國ガ正當ナル主張トスル宜シク

十三 粘樓屋製

MT

14133

10460

MT

14133

10459

予現存ノ證據物ヲ據トシテ國執スルニ在ルベシ

歴史上ヨリ親密ナルバ更ニ韓回ニ取テ有力ナル實利多クトス

一、韓皇ノ祖先ハ巨滿江東北邊今、海蘭河ヲ經テ、
遼北ニ在ル一帯ノ地

ニ起リ其ノ墳墓ノ地ナルニ清國ニ韓領ナルニ度也地方ヲ

故ナリ他國ニ割讓スル失アレバセメテハ南京ノ古址アル海

蘭河地方ヲ韓回ニ与フニ情義ノ當然ナルコト

二、明朝ヲ通シテ二百年間、巨滿江東北邊ノ女真人ハ韓回

ノ官署ヲ受テ半屬ノ姿ヲ呈セシニ清ノ太祖ガ勃興

セシ時其ノ同種者ヲ以テ盡ク其蕃庶ヲ撤去セシメテ

其地ヲ空虚ニシテハ當時ノ意志ハ人民ヲ統治スルニ在リ

テ土地ヲ占領スルニ在ラズ隨テ土地ニ對スル權利ハ清國ノ

有ズキモノニアラザルコト

三、清朝以東ニコノ空虚ノ地ハ兩國トモニ派兵ノ侵入ヲ禁

ジテ中ニ地タルノ實アリ慶源、訓戎ノ對岸ニ在リ瑯春附

近ニ於テスラ清國人ノ世居ヲ設クテ下ノ禁ニ在リ今ハ

瑯春地方ハ韓回ガ回收ヲ主張スルニ在ラザレバ今然

韓回氏ガ力作ノ結果トシテ定テ開發セシムル間嶋ノ

統治權ヲ韓回ニ讓ルハ當然ノ報償ナルコト

四、鴨綠江對岸ノ中ニ地タルニ旺清、霧陽邊門外空地

ハ清國人ノ禁ヲ犯シテ同族ヤルハ然レニ其ノ領土ノ

開發ヲ默認シタルハ韓回人ノ禁ヲ犯シテ開發セシ間嶋

ヲ以テ韓回ノ領土トスルハ當然ナルコト

此件ハ開シテ鴨綠江中ニ
在リ其ノ實利多クトシテ
煩ヲ避ケテ令テ改載スル

更ニ之ヲ切言スルハ公平判斷ノ最良根據トシテハ清韓二國ガ宗主

藩屬ノ關係ヲ生ズル及ビ境界ニ關スル意思ナキ以前ノ文書ト

現在ノ狀態ニ於テ土地ニ對スル用カ、イツレ國ガ比較上優先ナル

十三 結構屋製

MT

14133

10462

MT

14133

10461

トヲ標準トスルハ心ウケルガ康熙定界以前ノ記録ハ清國ハ其端
 江沿岸ヲ以テ韓國ト關係深キリシ其真番府ヲ撤去シテ其土地
 ヲ放棄シタル實蹟ノ外、何等ノ見ルベキヤク現在土地開發
 根原ハ全ク韓人ノ力作ニヨリコトハ動カズベカラン事實ニシテ清
 國ガ其ノ朝鮮ニ對スル宗主ノ權威ニ憑リテ偏重ナル交渉ヲ
 ナセシ歴史ヲ據トシテ曖昧ニ尙テ結ビタル其レシ不審ナリト
 以上ノ歴史及ヒ地理上ヨリ下カ觀察ノ結果、定界碑ノ存在
 セルハ分水嶺ヲ以テ南々圖河、即チ分界江ノ發源地ニハ
 年巴嶺、即チ下畔嶺ニ巨ル山脈以南及ヒ布魯各圖河が豆
 満江ニ合流スルニテ南々圖河ノ地域ヲ以テ韓國ノ領土トスルコトハ
 当然ノコトニシテ速カニ地方官ヲ設ケ守備兵ヲ派遣スルハ
 目下緊要ナル處置ナリト信ス

明治三十九年二月十九日 内藤虎造郎 識

十三 栴檀屋製

MT

14133

10464

MT

14133

10463

五、附言

本篇は旅次匆卒ノ際ニ草セルヲ以テ資料ニ供セル文書ハ極メテ僅少ナルヲ免カレズ即チ

東國輿地勝覽

國朝寶鑑

通文館志

大韓疆域考

以上群書

御制盛京賦

欽定盛京通志

盛京典制備考

水道提綱

吉林外記

東三省輿圖

吉林通志

東藩紀要

盛京崇禎閣所藏舊檔案

昨年中青色写真法ヲ以テ復写セル者

盛京翔鳳閣所藏滿文盛京圖

昨年中写真セル者

以上清書

露文滿洲圖

等ニ返ギズ若シ假スニ時日ヲ以テセラレンニハ參考スルニキ資料ハ本邦現存ノモノニモ尠カラス然レドモ材料ノ取捨ハ最モ注意ヲ用テ其精確ナルヲ期スルノ但テ要スルニ其大綱ヲ擧ゲシ止ルヲ以テ若シ更ニ完全ナル考定ノ必要トセバ廣ク本邦所存ノ資料ヲ採取スル外、左ノ四件ヲ實行セラルベカラズ

MT

14133

10466

MT

14133

10465

一、韓國政府名久内廷ニ保存せん、記録ヲ度々調査
 して新舊ノ文書、地圖等ヲ参照スルコト
 二、清國奉天ノ宮殿名久將軍樞庫ニ藏らん記録
 文書ヲ調査して新舊ノ資料ヲ詮索スルコト
 三、清國吉林ノ將軍樞庫ニ藏らん記録文書ヲ調査シ
 テ近年ノ交渉ニ関るん資料ヲ詮索スルコト
 四、兩國ノ地志、文書ヲ根柢トせん地理ノ材料ヲ携帶シテ
 豆満松花鴨綠三江ノ發源地、及び豆満江ノ必要ナル本支
 流地方ヲ踏査シ其ノ合不合ヲ檢定スルコト
 現ニ奉天宮殿内ニハ大幅ナル滿漢兩文ノ盛京圖、及び
 滿文長白山圖ヲ藏せんコトハ予ノ意見ヤル所ニシテ其他
 にも有るに似たり資料ヲ得んキ見込ナキニテ、又韓國ノ文
 書ニ至リテハ我邦が韓國ノ外交ヲ擔任せん以上、最モ必
 要ナルモノトシテ速カニ上陳四件ヲ實行セムレバ切望
 ニ堪へせん所ナリ

内藤虎次郎 又識

MT 14133 10468 MT 14133 10467

十三 粘横屋製

